

Power Systems

*IBM Power System S914 (9009-41A およ
び 9009-41G) の設置*



お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、v ページの『安全上の注意』、25 ページの『特記事項』、「*IBM Systems Safety Notices*」(G229-9054)、および「*IBM Environmental Notices and User Guide*」(Z125-5823)に記載されている情報をお読みください。

本製品およびオプションに電源コード・セットが付属する場合は、それぞれ専用のものになっていますので他の電気機器には使用しないでください。本体機器提供後に、追加で電源コード・セットが必要となった場合は、補修用の取扱いとなります。

本書は、POWER9 プロセッサを搭載した IBM Power Systems サーバーおよびすべての関連モデルに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典：

GI11-9929-03
Power Systems
Installing the IBM Power System S914
(9009-41A and 9009-41G)

発行：

日本アイ・ビー・エム株式会社

担当：

トランスレーション・サービス・センター

© Copyright International Business Machines Corporation 2020.

目次

安全上の注意.....	v
IBM Power System S914 (9009-41A および 9009-41G) の設置.....	1
ラック・ベースのサーバーの設置.....	1
ラック・マウント型サーバーの設置の前提条件.....	1
サーバー用の部品の用意.....	1
ラック内の位置の決定とマーク付け.....	2
ラックへの取り付け用ハードウェアの取り付け.....	3
ラックへのシステムの設置.....	7
ケーブル・マネジメント・アームの取り付け.....	9
サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ.....	12
サーバーのケーブル接続および拡張装置の接続.....	18
サーバーのセットアップを完了します.....	19
特記事項.....	25
IBM Power Systems サーバーのアクセシビリティ機能.....	26
プライバシー・ポリシーに関する考慮事項.....	27
商標.....	27
電波障害規制特記事項.....	28
クラス A 表示.....	28
クラス B 表示.....	31
使用条件.....	33

安全上の注意

安全上の注意は、このガイド全体を通じて記載されています。

- **危険**の注記は、人間に致命的または極めて危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **注意**の注記は、何らかの状況が原因の、人間に危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **重要**の注記は、プログラム、装置、システム、あるいはデータに損傷を与える可能性があることを示します。

ワールド・トレードの安全上の注意

国によっては、製品資料に記載される安全上の注意を自国語で提示するよう要求しています。この要求がお客様の国に適用される場合は、製品に付属の資料パッケージ (印刷された資料または DVD で、あるいは製品の一部として) に安全上の注意についての文書が含まれます。この文書には、英語原典に準拠した、各国語による安全上の注意が記載されています。この製品の取り付け、操作、または保守のために英語の資料をご使用になる場合は、まず、関連している安全上の注意についての文書をよくお読みください。また、英語版資料の安全上の注意が明確に理解できない場合も、必ずこの文書を参照してください。

安全上の注意についての文書の差し替え版または追加のコピーについては、IBM ホットライン (1-800-300-8751) に連絡して入手することができます。

レーザーに関する安全上の注意

IBM® サーバーは、レーザーまたは LED を使用する、光ファイバー・ベースの I/O カードまたはフィーチャーを使用することができます。

レーザーに関する準拠

IBM サーバーは、IT 装置ラックの内部または外部に取り付けることができます。



危険: システムまたはその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

電源ケーブルや電話線、通信ケーブルからの電圧および電流は危険です。感電を防ぐために次の事項を守ってください。

- IBM から電源コードが供給されている場合は、その電源コードのみを使用して当装置を電源に接続します。IBM から供給された電源コードは、他の製品には使用しないでください。
- 電源装置アセンブリを開いたり、保守しないでください。
- 雷雨の間はケーブルの接続や切り離し、または本製品の設置、保守、再構成を行わないでください。
- この製品は複数の電源コードを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。
 - AC 電源では、すべての電源コードをそれぞれの AC 給電部から切り離します。
 - DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、PDP へのお客様の DC 電源を切断してください。
- 製品に電源を接続する際には、すべての電源ケーブルが適切に接続されていることを確認します。
 - AC 電源付きのラックでは、すべての電源コードを正しく配線され接地されたコンセントに接続します。電源コンセントから供給される電圧と相回転がシステムの定格銘板に従っていることを確認します。
 - DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、お客様の DC 電源を PDP へ接続します。DC 電源および DC 電源帰線を接続する際に、必ず、適切な極性が使用されていることを確認してください。

- ・ ご使用の製品に接続するすべての装置を、正しく配線されたコンセントに接続してください。
- ・ シグナル・ケーブルの接続または切り離しは可能なかぎり片手で行ってください。
- ・ 火災、水害、または建物に構造的損傷の形跡が見られる場合は、どの装置の電源もオンにしないでください。
- ・ 考えられる危険な状態がすべて修正されるまで、マシンへの電力をオンに切り替えようとしないでください。
- ・ 電気に関する安全上の問題が存在することを前提としてください。サブシステムの取り付け手順時に指定された導通、接地、および電源のチェックをすべて実行して、そのマシンが安全要件を満たしていることを確認してください。
- ・ なんらかの危険な状態が存在する場合は、検査を続行しないでください。
- ・ 装置のカバーを開ける前に、取り付けおよび構成の手順で別途指示されている場合を除き、接続されている AC 電源コードを切り離し、ラック電力配分パネル (PDP) 内の該当する回路ブレーカーの電源をオフにして、すべての通信システム、ネットワーク、およびモデムを切り離します。



危険:

- ・ ご使用の製品または接続されたデバイスの取り付け、移動、またはカバーの取り外しを行う場合には、次の手順に従ってケーブルの接続および取り外しを行ってください。

ケーブルの切り離し手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. AC 電源では、コンセントから電源コードを取り外します。
3. DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、PDP 内の回路ブレーカーの電源をオフにして、お客様の DC 電源から電力を除去します。
4. シグナル・ケーブルをコネクタから取り外します。
5. すべてのケーブルをデバイスから取り外します。

ケーブルの接続手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. すべてのケーブルをデバイスに接続します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタに接続します。
4. AC 電源では、電源コードをコンセントに接続します。
5. DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、お客様の DC 電源からの電力を回復し、PDP 内の回路ブレーカーの電源をオンにします。
6. デバイスの電源をオンにします。

鋭利な先端の部品やジョイントがシステムの中や周囲に存在している可能性があります。機器を取り扱う際には、指を切ったり、こすったり、挟んだりしないように注意してください。(D005)

(R001 パート 2 の 1):



危険: IT ラック・システムやその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

- ・ 重量のある装置の場合、取り扱いを誤ると身体傷害または設備の損傷を引き起こす可能性があります。
- ・ ラック・キャビネットのレベル・パッドは必ず下げておきます。
- ・ ラック・キャビネットには必ずスタビライザー・ブラケットを取り付けてください。
- ・ 釣り合いがとれていない機械的荷重による危険な状態を避けるため、最も重いデバイスを常に、ラック・キャビネットの下部に取り付けます。必ず、サーバーおよびオプション・デバイスはラック・キャビネットの下部側から取り付けてください。
- ・ ラック・マウント型デバイスを柵やワークスペースとして使用しないでください。ラックに搭載された装置の上にものを載せないでください。また、ラックに取り付けられた装置に寄りかかったり、身体を安定させるため (はしごから作業を行うときなど) にそれらの装置を使用したりしないでください。



- 安定度の危険:
 - ラックがひっくり返って、重傷を引き起こす可能性があります。
 - ラックを取り付け位置に広げる前に、設置手順を読んでください。
 - 取り付け位置にマウントされているスライド・レールが装着済みの装置に負荷をかけないでください。
 - スライド・レールが装着済みの装置を取り付け位置に入れたままにしないでください。
- 各ラック・キャビネットには複数の電源コードが付属していることがあります。
 - AC 電源付きのラックでは、保守作業中に電源を切り離す指示がある場合は、ラック・キャビネット内のすべての電源コードを必ず取り外してください。
 - DC 電力配分パネル (PDP) 付きのラックでは、保守作業中に電源を切断するよう指示された場合、システム装置 (単数または複数) への電力を制御する回路ブレーカーをオフにするか、またはお客様の DC 電源を切断してください。
- ラック・キャビネット内のすべてのデバイスは、同一ラック・キャビネットに取り付けられている電源デバイスに接続します。あるラック・キャビネットに取り付けられているデバイスの電源コードを、別のラック・キャビネットにある電源デバイスに接続しないでください。
- 正しく配線されていない電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されたデバイスの金属部品に危険な電圧をかける可能性があります。感電を避けるためにコンセントが正しく配線および接地されていることの確認は、お客様の責任で行ってください。(R001 パート 2 の 1)

(R001 パート 2 の 2):



注意:

- ラック内部の温度が、すべてのラック・マウント型デバイスに対する製造者推奨の周辺温度を超えるようなラック内には、装置を取り付けしないでください。
- 空気の流れが妨げられているラック内には、装置を取り付けしないでください。装置内で空気の流れるために使用される装置のいずれかの側面、前面、または背面で、空気の流れが妨げられたり減速されたりしないようにしてください。
- 回路の過負荷によって電源配線や過電流保護が破損しないように、電源回路への機器の接続には十分注意してください。ラックに正しく電源を接続するには、ラック内の機器の定格ラベルで、電源回路の総消費電力を確認してください。
- (引き出し式ドロワーの場合。) ラック・スタビライザー・ブラケットがラックに取り付けられていない場合は、ドロワーまたはフィーチャーを引き出したり、取り付けたりしないでください。一度に複数のドロワーを引き出さないでください。一度に複数のドロワーを引き出すと、ラックが不安定になる可能性があります。



- (固定式ドロワーの場合。) このドロワーは固定ドロワーなので、製造元の指定がない限り、保守のために動かさないでください。ラックからドロワーの一部または全部を引き出そうとすると、ラックが不安定になったり、ドロワーがラックから落下する可能性があります。(R001 パート 2 の 2)



注意: ラック・キャビネット内の上の方の位置からコンポーネントを取り外すと、再配置中のラックの安定性が改善されます。格納されたラック・キャビネットを部屋または建物内で再配置するときは必ず、以下の一般ガイドラインに従ってください。

- ・ ラック・キャビネットの上部から順に装置を取り外すことにより、ラック・キャビネットの重量を減らします。可能な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。この構成がわからない場合は、以下の手順を実行する必要があります。
 - 32U 位置 (コンプライアンス ID RACK-001) または 22U (コンプライアンス ID RR001) 以上にあるすべてのデバイスを取り外します。
 - 最も重いデバイスがラック・キャビネットの下部に取り付けられていることを確認します。
 - ラック・キャビネット内で 32U (コンプライアンス ID RACK-001) または 22U (コンプライアンス ID RR001) のレベルより下に取り付けられたデバイス間に空の U レベルがほとんどないことを確認します。
- ・ 再配置しているラック・キャビネットが、一組のラック・キャビネットの一部である場合は、そのスイートからラック・キャビネットを切り離します。
- ・ 再配置するラック・キャビネットに取り外し可能なアウトリガーが取り付けられている場合は、アウトリガーを再配置してから、キャビネットを再配置する必要があります。
- ・ 通る予定の経路を検査して、障害になる可能性があるものを取り除きます。
- ・ 選択する経路が、搭載されたラック・キャビネットの重量を支えることができるか検査します。搭載されたラック・キャビネットの重量については、ラック・キャビネットに付属の資料を参照してください。
- ・ すべてのドアの開口部が少なくとも 760 x 230 mm 以上であることを確認します。
- ・ すべてのデバイス、シェルフ、ドロワー、ドア、およびケーブルが安定していることを確認します。
- ・ 4 つのレベル・パッドが最も高い位置に上がっていることを確認します。
- ・ 移動時にスタビライザー・ブラケットがラック・キャビネットに取り付けられていないことを確認します。
- ・ 傾斜が 10 度を超えるスロープは使用しないでください。
- ・ ラック・キャビネットが新しい場所に置かれたら、次の手順を実行します。
 - 4 つのレベル・パッドを下げます。
 - ラック・キャビネット上にスタビライザー・ブラケットを取り付けるか、地震環境ではラックを床にボルトで留めます。
 - ラック・キャビネットからデバイスを取り外してあった場合は、ラック・キャビネットの最も低い位置から最も高い位置へと格納していきます。
- ・ 長距離の移動が必要な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。ラック・キャビネットを元の梱包材、またはそれと同等のもので梱包します。また、レベル・パッドを下げて、キャスターをパレットから離れるように持ち上げ、ラック・キャビネットをパレットにボルトで止めます。

(R002)

(L001)



危険：このラベルが貼られているコンポーネントの内部には、危険な電圧、強い電流が流れています。このラベルが付いているカバーまたはバリアは開けないでください。(L001)

(L002)



危険：ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。ラックに搭載された装置の上にものを載せないでください。また、ラックに取り付けられた装置に寄り掛かったり、(はしごに乗って作業している場合などに) 体の位置を安定させるためにそれらの装置を使用したりしないでください。安定度の危険:

- ・ラックがひっくり返って、重傷を引き起こす可能性があります。
- ・ラックを取り付け位置に広げる前に、設置手順を読んでください。
- ・取り付け位置にマウントされているスライド・レールが装着済みの装置に負荷をかけないでください。
- ・スライド・レールが装着済みの装置を取り付け位置に入れたままにしないでください。

(L002)

(L003)



または



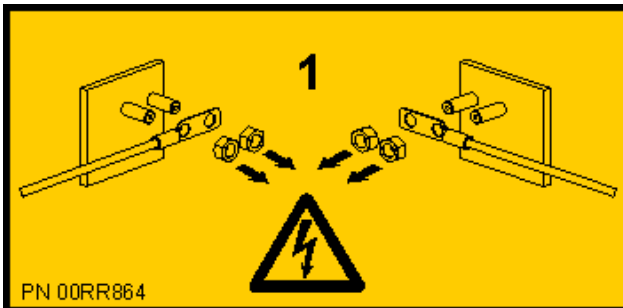
または



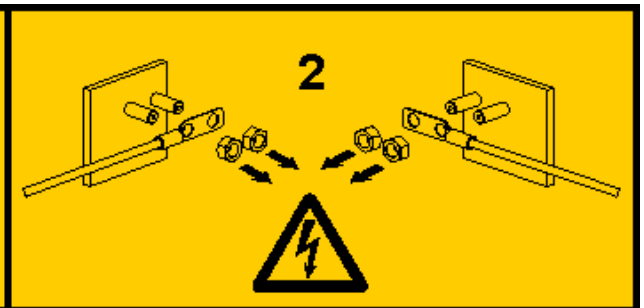
または




または




PN 00RR864



 **危険:** 複数の電源コード。この製品は複数の AC 電源コードや複数の DC 電源ケーブルを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するために、すべての電源コードと電源ケーブルを切り離してください。(L003)

(L007)



 **注意:** 近くに高温になる部品が存在します。(L007)

(L008)



注意: 近くに危険な可動部品があります。(L008)

すべてのレーザーは、クラス 1 のレーザー製品について規定している米国の保健社会福祉省連邦規則 21 副章 J (DHHS 21 CFR Subchapter J) の要件に準拠していることが認証されています。米国以外の国では、レーザーは、クラス 1 レーザー製品として IEC 60825 に準拠していることが認証されています。レーザー認証番号および承認情報については、各部品のラベルをご覧ください。



注意: この製品には、クラス 1 のレーザー製品である CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブ、DVD-RAM ドライブ、またはレーザー・モジュールの各デバイスのうち 1 つ以上が含まれていることがあります。次の情報に注意してください。

- カバーを外さないこと。カバーを取り外すと有害なレーザー光を浴びることがあります。この装置の内部には保守が可能な部品はありません。
- 本書に記述されている以外の手順、制御または調節を行うと有害な光線を浴びることがあります。

(C026)



注意: データ処理環境には、クラス 1 のパワー・レベルより高いレベルで作動するレーザー・モジュールを備えるシステム・リンク上で伝送する装置が含まれることがあります。この理由から、光ファイバー・ケーブルの先端、またはコンセントの差込口を覗き込まないでください。光ファイバーの導通を確認するために、切断された光ファイバーの一方の端に明るい光を入れ、もう一方の端を覗き込んでも目に損傷を与えない可能性はありますが、このやり方は潜在的に危険です。そのため、一方の端に明るい光を入れ、もう一方の端を覗き込んで光ファイバーの導通を確認することはお勧めしません。光ファイバー・ケーブルの導通を検査するには、光学式光源および電力メーターを使用してください。(C027)



注意: この製品には、クラス 1M のレーザーが含まれています。光学装置を用いて直接見ないでください。(C028)



注意: 一部のレーザー製品には、クラス 3A またはクラス 3B のレーザー・ダイオードが組み込まれています。次の情報に注意してください。

- カバーを開くとレーザー光線の照射があります。
- 光線を見つめたり、光学装置を用いて直接見たり、光線を直接浴びることは避けてください。

(C030)

(C030)



注意: このバッテリーにはリチウムが含まれています。爆発することがありますので、バッテリーを火中に入れたり、充電したりしないでください。

次の行為は絶対にしないでください。

- 水に投げ込む、あるいは浸す
- 100°C を超える過熱
- 修理または分解

IBM 承認の部品のみと交換してください。バッテリーのリサイクルまたは廃棄については、地方自治体の条例に従ってください。米国では、IBM がこのバッテリーの回収プロセスを設けています。詳しくは、1-800-426-4333 にお問い合わせください。お問い合わせの前に、このバッテリー・ユニットの IBM 部品番号をご用意ください。(C003)



注意: IBM 提供のベンダー・リフト・ツールに関する注意:

- リフト・ツールの作業は、許可された担当者のみが行ってください。
- リフト・ツールは、ラックの高い位置での装置 (荷物) の補助、引き上げ、取り付け、取り外しに使用するためのものです。これは、装置を装着して大きなスロープを移送するために使用したり、パレット・ジャック、ウォーカー、フォーク・トラックなどの指定ツールや関連の再配置実施の代替として使用したりするためのものではありません。このような作業を実行できない場合は、特別な訓練を受けた担当員またはサービスを使用する必要があります (例えば、整備業者や運送業者など)。
- リフト・ツールを使用する前に、作業用者の資料を読んで完全に理解してください。よく読んで理解し、安全の規則に従い、手順に従って作業しないと、資産が損傷したり、作業者が負傷したりする可能性があります。質問がある場合は、ベンダーのサービスおよびサポートにお問い合わせください。ご使用の地域用の紙の資料は、マシンの近くの保管場所に保存しておく必要があります。最新リビジョンの資料は、ベンダーの Web サイトから入手可能です。
- 使用前には、毎回スタビライザーのブレーキ機能をテストして確認してください。スタビライザーのブレーキを固定した状態で、過剰な力でリフト・ツールを動かしたり回転させたりしてはなりません。
- スタビライザー (ブレーキ・ペダル・ジャック) が完全に固定されていない限り、プラットフォーム積載棚を上下左右に動かしてはなりません。使用も移動もしていない場合は、スタビライザーのブレーキを固定したままにしてください。
- わずかな位置決めを除き、プラットフォームが上がっている状態でリフト・ツールを移動させてはなりません。
- 定められた積載能力を超えてはなりません。引き伸ばされたプラットフォームの中央と端における最大積載量については、積載能力チャートを参照してください。
- 積載量が増加するのは、プラットフォームの中央に適切に配置されている場合のみです。スライドさせたプラットフォームの棚の端には、91 kg を超える装置を置いてはなりません。また、装置の重心も考慮する必要があります。
- プラットフォーム、傾斜ライザー、角度のあるユニット設置ウェッジ、その他の付属品オプションの隅に荷重をかけないでください。そのようなプラットフォーム (ライザー傾斜、ウェッジなどのオプション) は、使用する前に、提供されたハードウェアのみを使用して 4 つの位置すべて (4x またはその他のプロビジョン取り付け) にあるメイン・リフト棚または分岐点に固定します。積載オブジェクトは、大きな力を加えなくてもプラットフォーム上で簡単にスライドするように設計されているため、押しったり寄り掛かったりしないように注意してください。ライザー傾斜 (「調整可能な角度プラットフォーム」) オプションは、最終的な微調整 (必要な場合) を除き、常に平らな状態を維持してください。
- 突き出した積載の下には立たないでください。
- 表面に段差がある場所や傾斜 (大きなスロープ) では使用しないでください。
- 装置を積み重ねないでください。
- 薬物やアルコールの影響がある状態で操作を行ってはなりません。
- 踏み台をリフト・ツールに立てかけて支えてはなりません (このツールを使用した高さでの作業に対して認定された手順に従うものに特定のあそびが設けられている場合を除く)。
- 倒れる危険があります。プラットフォームが上がった状態で装置を押しったり寄り掛かったりしてはなりません。
- 人を持ち上げるためのプラットフォームや階段として使用してはなりません。人を乗せるためのものではありません。
- リフトのどの部分にも立ってはなりません。階段ではありません。
- マストに登ってはなりません。
- 損傷あるいは誤動作しているリフト・ツール・マシンを操作してはなりません。
- プラットフォームの下には、押し潰されたり挟まったりする危険な場所があります。装置を下ろす場合は、必ず人や障害物がない場所で行ってください。作業中は、手足に十分に注意してください。

- フォークではありません。パレット・トラック、ジャック、あるいはフォーク・リフトを使用して、むき出しのリフト・ツール・マシンを持ち上げたり移動したりしてはなりません。
- マストはプラットフォームより高い位置まで伸びます。天井の高さ、ケーブル・トレイ、スプリンクラー、電灯、およびその他の頭上にある物に注意してください。
- 装置を上げた状態でリフト・ツール・マシンから離れないでください。
- 装置が動作しているときは、手、指、衣類に十分に注意してください。
- ウィンチは、手の力のみで回転させてください。ウィンチ・ハンドルを片手で回すのが困難である場合は、荷重が大きすぎる可能性が高いです。プラットフォーム・トラベルの最上部または最下部を超えてウィンチを回さないでください。過度に巻き戻すと、ハンドルが外れてケーブルが損傷します。下げたり巻き戻したりする場合は、常にハンドルを保持してください。ウィンチ・ハンドルを離す前に、ウィンチが装置を保持していることを必ず確認してください。
- ウィンチの事故は、重傷の原因となる可能性があります。人を動かすためのものではありません。装置を引き上げる際には、クリック音が聞こえることを確認してください。ハンドルを離す前に、ウィンチが所定の位置にロックされていることを確認してください。このウィンチで作業する前に、手順を示すページをお読みください。絶対にウィンチが勝手に巻き戻ることがないようにしてください。ウィンチが勝手に回転すると、ケーブルが不規則にウィンチ・ドラムの周囲に巻かれたり、ケーブルが損傷したり、重傷の原因となる可能性があります。
- このツールは、IBM サービス担当員が使用するために、適切に維持する必要があります。IBM は、操作の前に状態を検査し、保守履歴を確認します。担当者は、不足がある場合に、このツールを使用しない権利を有します。(C048)

NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE の電源および配線の情報

以下のコメントは、NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE 準拠として指定された IBM サーバーに適用されます。

装置は、以下での設置に適しています。

- ネットワーク通信設備
- NEC (National Electrical Code) が適用される場所

この装置のイントラビルディング・ポートは、イントラビルディングまたは屋外に露出していない配線またはケーブル接続にのみ適しています。この装置のイントラビルディング・ポートを OSP (屋外施設) やその配線に接続されているインターフェースの金属部と接続しないでください。これらのインターフェースは、イントラビルディング・インターフェース (GR-1089-CORE 記載のタイプ 2 ポートまたはタイプ 4 ポート) としてのみ使用するよう設計されており、屋外に露出した OSP 配線とは分離する必要があります。1 次保護装置を追加しても、これらのインターフェースと OSP 配線の金属部の接続を十分に保護することはできません。

注: すべてのイーサネット・ケーブルは、シールドされ、両端が接地されている必要があります。

AC 電源システムに、外部サージ保護装置 (SPD) を使用する必要はありません。

DC 電源システムは、分離 DC 帰還 (DC-I) 設計を採用しています。DC バッテリー帰還端子をシャーシまたはフレーム・アースに接続しないでください。

DC 電源システムは、GR-1089-CORE に記載されているとおり、Common Bonding Network (CBN (共通ボンディング・ネットワーク)) に設置されることを意図したものです。

IBM Power System S914 (9009-41A および 9009-41G) の設置

ここでは、IBM Power® System S914 (9009-41A および 9009-41G) サーバーの設置について説明します。

ラック・ベースのサーバーの設置

ここでは、ラック/ベースの IBM Power System S914 (9009-41A および 9009-41G) サーバーの設置について説明します。

ラック・マウント型サーバーの設置の前提条件

ここでは、サーバーの設置に必要な前提条件を説明します。

このタスクについて

サーバーの設置を開始する前に、以下の資料を読むことが必要になる場合があります。

- この資料の最新バージョンは、オンラインで維持されています。[IBM Power System S914 \(9009-42A および 9009-41G\) の設置](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9eg1/p9eg1_roadmap.htm) (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9eg1/p9eg1_roadmap.htm) を参照してください。
- サーバーの設置を計画するには、『システムの計画』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9had/p9had_90x_kickoff.htm) を参照してください。
- ハードウェア管理コンソール (HMC) を使用している場合は、『ハードウェア管理コンソールの更新』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9eh6/p9eh6_updatehmc.htm) を参照してください。

サーバーを取り付ける前に、以下の前提条件について検討してください。

手順

1. 設置を開始する前に、次の品目が揃っていることを確認します。

- プラス・ドライバ
- マイナス・ドライバ
- 4U のスペースがあるラック

注: ラックをまだ設置していない場合は、ラックを設置します。手順については、『ラックおよびラック・フィーチャー』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hbf/p9hbf_9xx_kickoff.htm) を参照してください。

2. 以下のコンソールのいずれかが用意されていることを確認します。

- ハードウェア管理コンソール (HMC): POWER9 プロセッサ・ベースのシステムを管理するためには、HMC はバージョン 9 リリース 9.2.0 以降である必要があります。
- グラフィック・モニターとキーボードおよびマウス
- テレタイプ (tty) モニターとキーボード

サーバー用の部品の用意

以下の情報を使用して、ご使用のサーバー用の部品を用意します。

このタスクについて

部品を用意するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 注文したすべてのボックスを受け取ったことを確認します。
2. 必要に応じて、サーバー・コンポーネントを取り出します。
3. 各サーバー・コンポーネントを取り付ける前に、以下のステップに従って、部品が揃っていることを確認します。
 - a. サーバーのインベントリー・リストを見つけます。
 - b. 注文したすべての部品を受け取ったことを確認します。

注: 注文情報は、製品に付属しています。営業担当員または IBM ビジネス・パートナーからも注文情報を入手できます。

部品が間違っていたり、欠落または損傷があった場合は、以下のいずれかに連絡してください。

- お客様の IBM 販売店。
- IBM Rochester manufacturing automated information line: 1-800-300-8751 (米国のみ)。
- Directory of worldwide contacts Web サイト (<http://www.ibm.com/planetwide>)。地域を選択して、サービスおよびサポート窓口の情報を表示してください。

ラック内の位置の決定とマーク付け

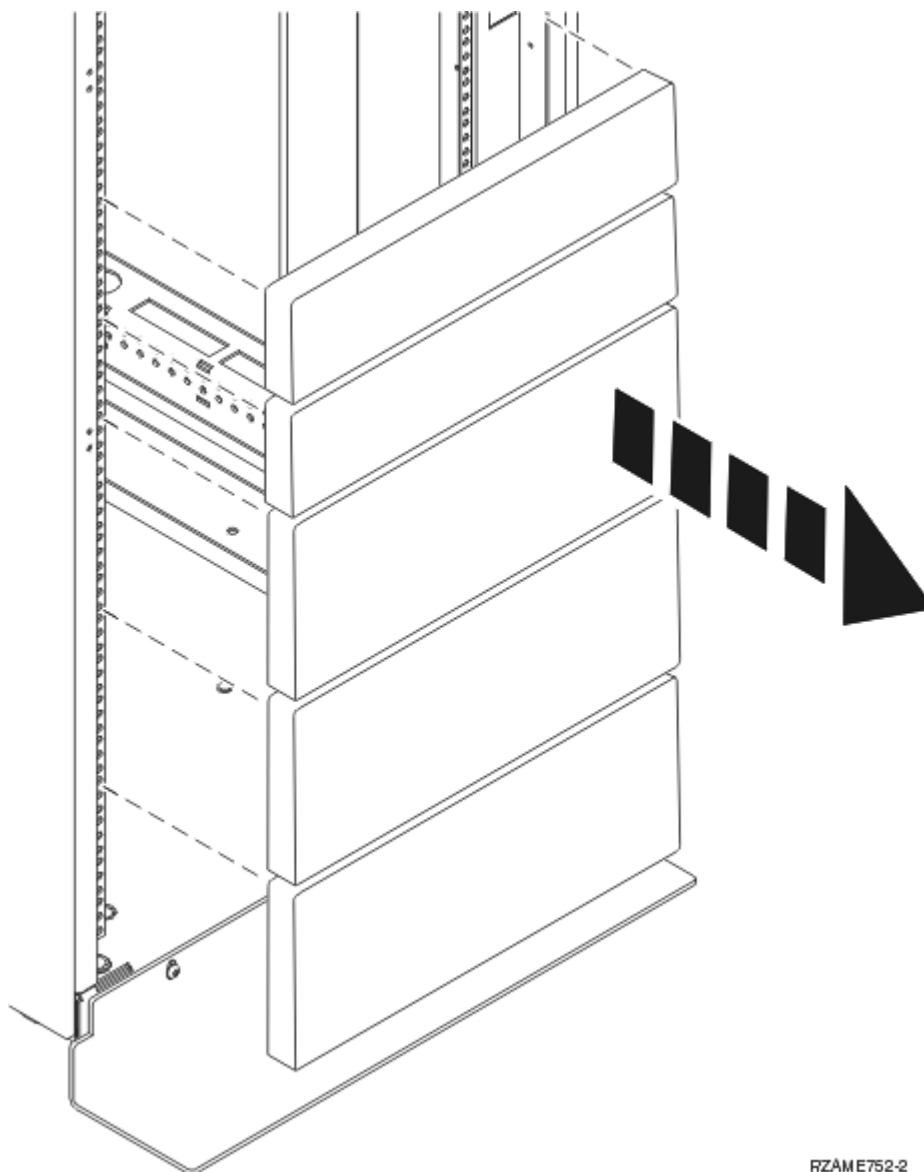
システム装置をラックに取り付ける場所を決定することが必要になる場合があります。

このタスクについて

システムをラックに取り付ける場所を決定するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 『[ラックの安全上の注意](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hbf/p9hbf_racksafety.htm)』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hbf/p9hbf_racksafety.htm)をお読みください。
 2. システム装置をラック内のどこに取り付けるかを決定します。システム装置をラック内に取り付けるための計画を立てる際に、以下の情報について検討してください。
 - 大きくて重いシステム装置を、ラックの下段に設置します。
 - 最初に、ラックの下の方の段からシステム装置を取り付けるように計画します。
 - 計画に EIA (Electronic Industries Alliance (米国電子工業会)) の位置を記録します。
- 注:** このサーバーは 4 EIA 単位の高さです。1 EIA 単位は 44.45 mm (1.75 インチ) の高さです。ラックには、1 EIA 単位の高さにつき 3 つの取り付け穴があります。したがって、このシステム装置は高さが 177.8 mm (7 インチ) で、ラック内の 12 個の取り付け穴を使用します。
3. 必要な場合は、3 ページの図 1 に示すように、装置を設置するラック・エンクロージャー内にアクセスできるように、フィラー・パネルを取り外します。



RZAME752-2

図 1. フィラー・パネルの取り外し

4. ラック内のどこにシステムを設置するかを決定します。EIA 位置を記録します。

注：ご使用のラックでの 1 EIA 単位は、3 つの穴のグループで構成されています。

5. ラックの前面に向かって右側から作業を行い、テープ、マーカー、または鉛筆を使用して、最下段 EIA 単位の最下部の穴に印を付けます。次に、この EIA 単位のすぐ上の EIA 単位の最下部の穴にマークを付けます。
6. ラック左側の対応する穴に対してもステップ 3 ページの『5』を繰り返します。
7. ラックの背面に移動します。
8. 右側で、ラックの前面でマークを付けた最下段の EIA 単位に対応する EIA 単位を見つけます。
9. EIA 単位の下部と、その EIA 単位の上部の穴にマークを付けます。
10. ラックの左側にある対応する穴にマークを付けます。

ラックへの取り付け用ハードウェアの取り付け

取り付け用ハードウェアをラックに取り付ける必要がある場合があります。この作業を実行するには、次の手順を使用します。以下の情報は、安全性および信頼性の高い運用を促進することを目的としています。また、以下の情報では関連ハードウェア・コンポーネントの図も記載されており、それらのコンポーネント間の相互関係が示されています。

このタスクについて



重要: レールに不具合が生じたり、ご自身とシステム装置に危険が生じるのを避けるために、ご使用のラック用の適切なレールと取り付け具を使用していることを確認してください。ご使用のラックに支持フランジ用の四角い穴または支持フランジ用のねじ穴がある場合、レールと取り付け具が、ラックで使われている支持フランジ用の穴に一致することを確認してください。一致しないハードウェアをワッシャーまたはスペーサーを使用して取り付けしないでください。ご使用のラックに適合したレールと取り付け具が装備されていない場合は、お客様の IBM 販売店にお問い合わせください。

ラック取り付け用ハードウェアをラックに取り付けるには、以下の手順を実行します。

手順

1. ラックの前面から、左側のレールの端のピン **1** をラックの後部に揃えます。

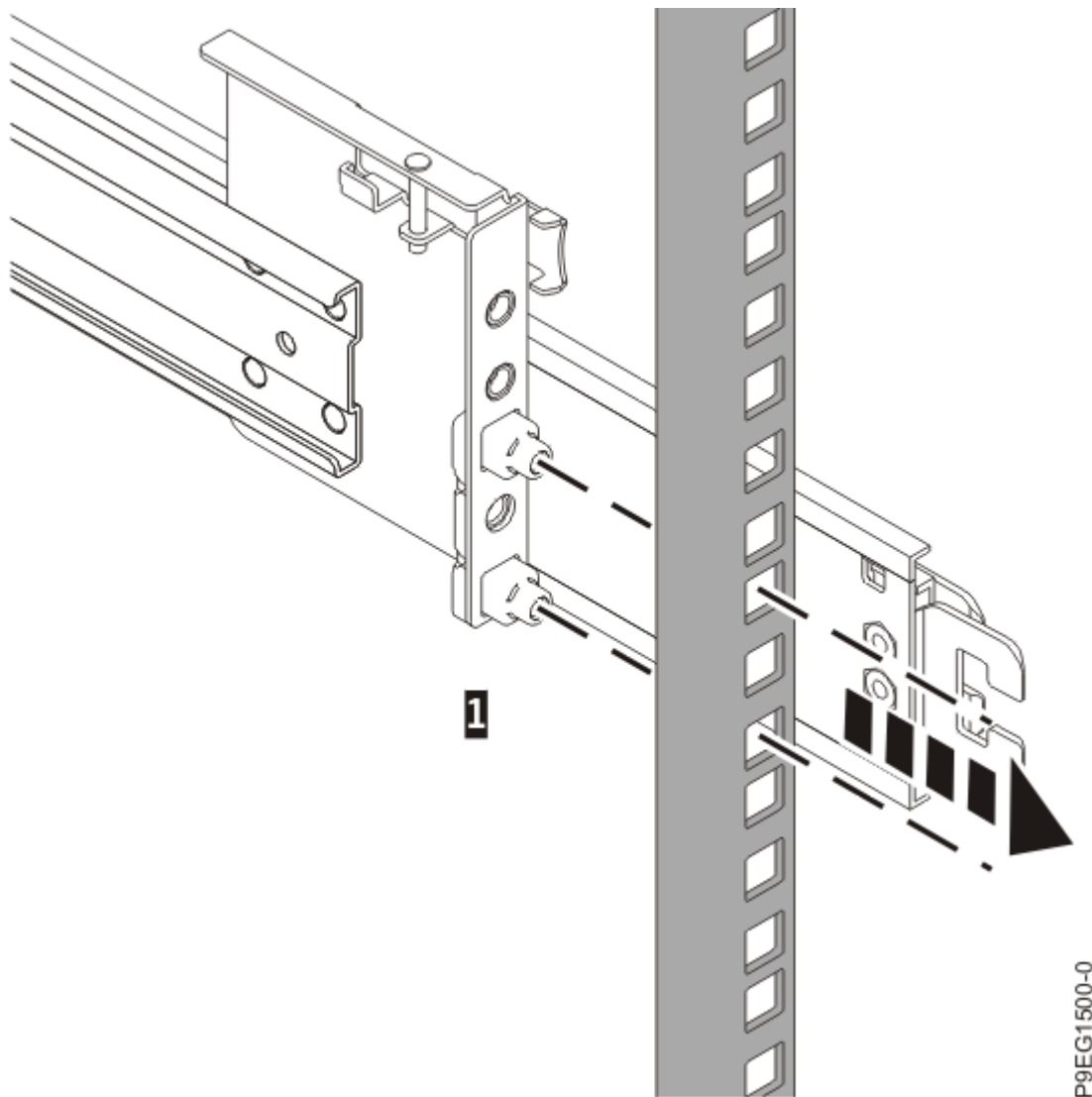
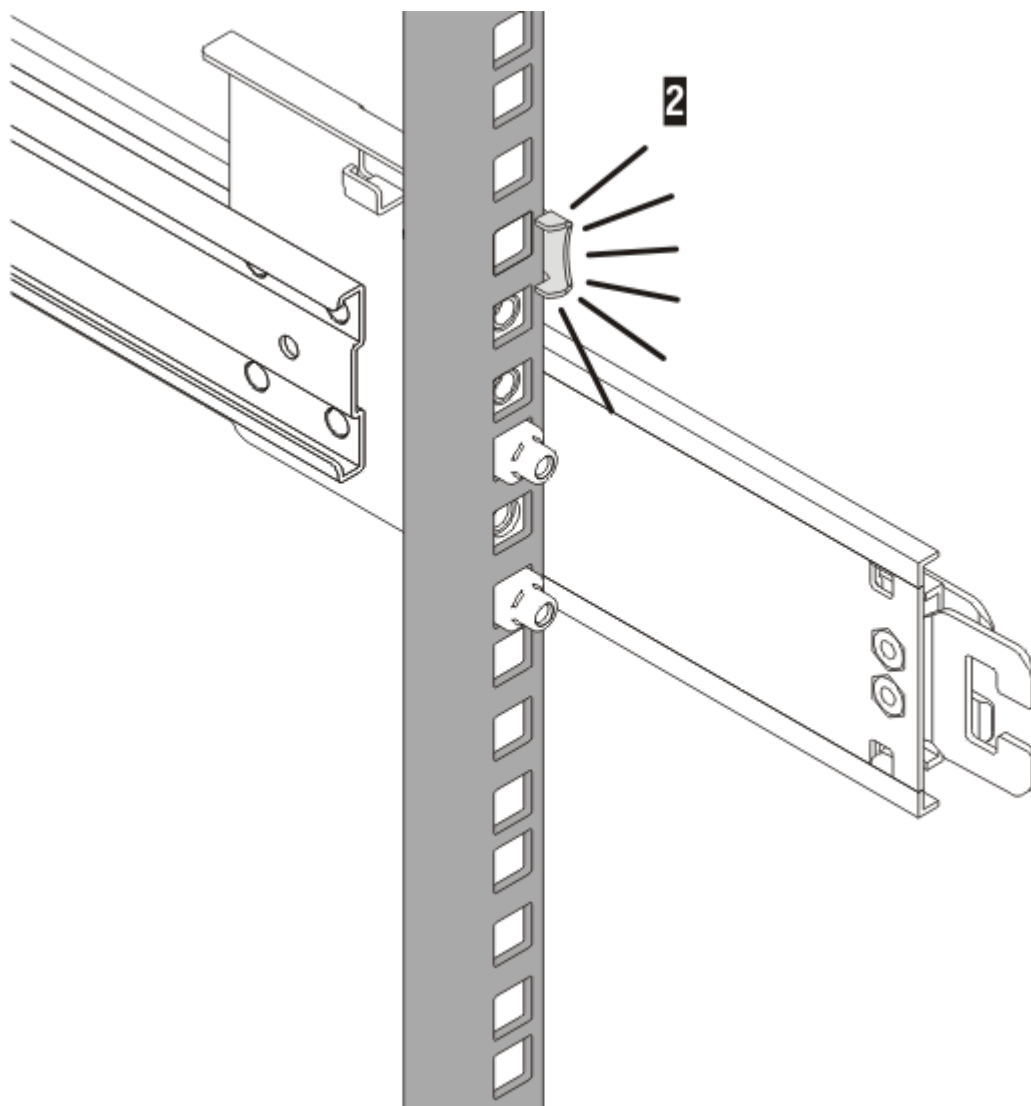


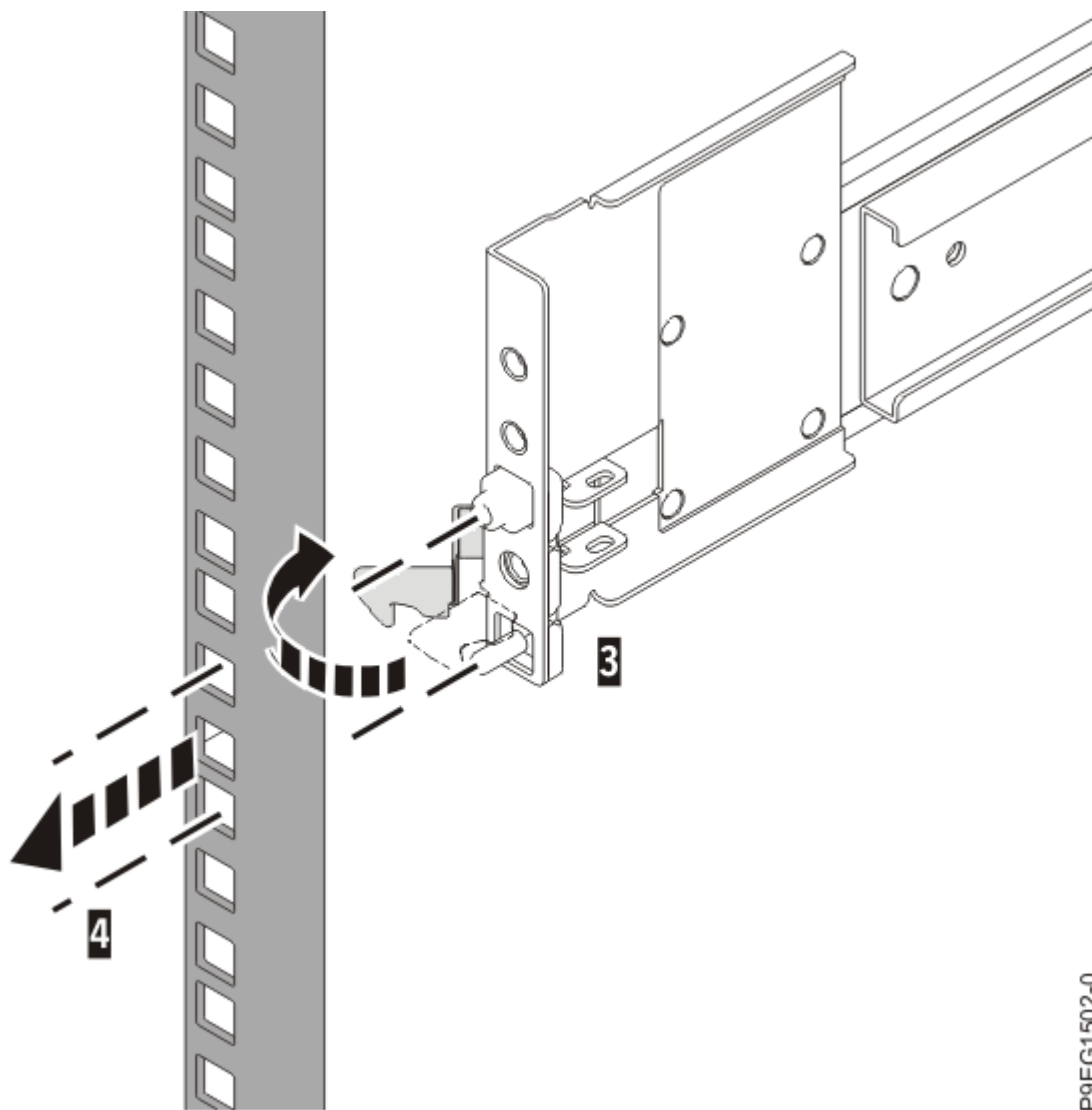
図 2. 左側のレールの端とラック後部との位置合わせ

2. レールが所定の位置 **(2)** に音を立てて収まるまで押し込み、背面ラック・フランジに入れます。



P9EG1501-0

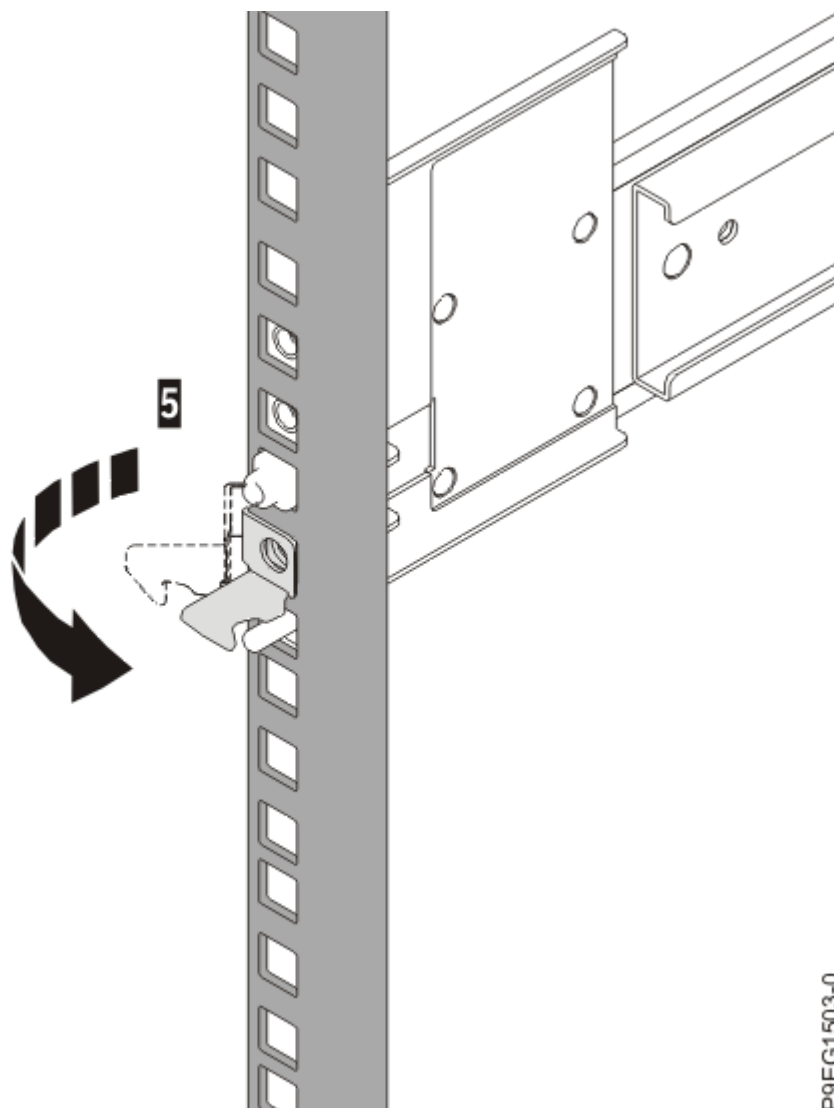
- 図 3. レールが所定の位置に音を立てて収まるまで背面ラック・フランジに押し込む
3. レール保持ブラケットを外側に回転 **(3)** させ、ピンの位置がラックの正しい穴 **(4)** に合うまで、レールの前面をラックの正面方向へ押します。



P9EG1502-0

図 4. 保持ブラケットの回転とピンの位置合わせ

4. レール保持ブラケットがラック・フランジ (5) にロックされるように、ブラケットを回転させます。



P9EG1503-0

図 5. ラック・フランジへのレール保持ブラケットのロック
5. 右側のレールについて、上記ステップを繰り返します。

ラックへのシステムの設置

システムをラックに設置するには、この手順を実行します。

このタスクについて



重要:

- 静電気の放電 (ESD) によるハードウェアの損傷を防ぐために、ESD リスト・ストラップを、ご使用のハードウェアの前面の ESD ジャック、背面 ESD ジャック、または塗装されていない金属面に接触させます。
- ESD リスト・ストラップ使用時は、電気機器のすべての安全手順に従います。ESD リスト・ストラップは静電気を制御するために使用するものです。これは、電気機器を使用または電気機器で作業を行う際に、感電するリスクを増大するものでも、低減するものでもありません。
- ESD リスト・ストラップがない場合は、製品を ESD パッケージから取り出して、ハードウェアの取り付けまたは取り替えを行う直前に、システムの塗装されていない金属面に少なくとも 5 秒以上触れてください。

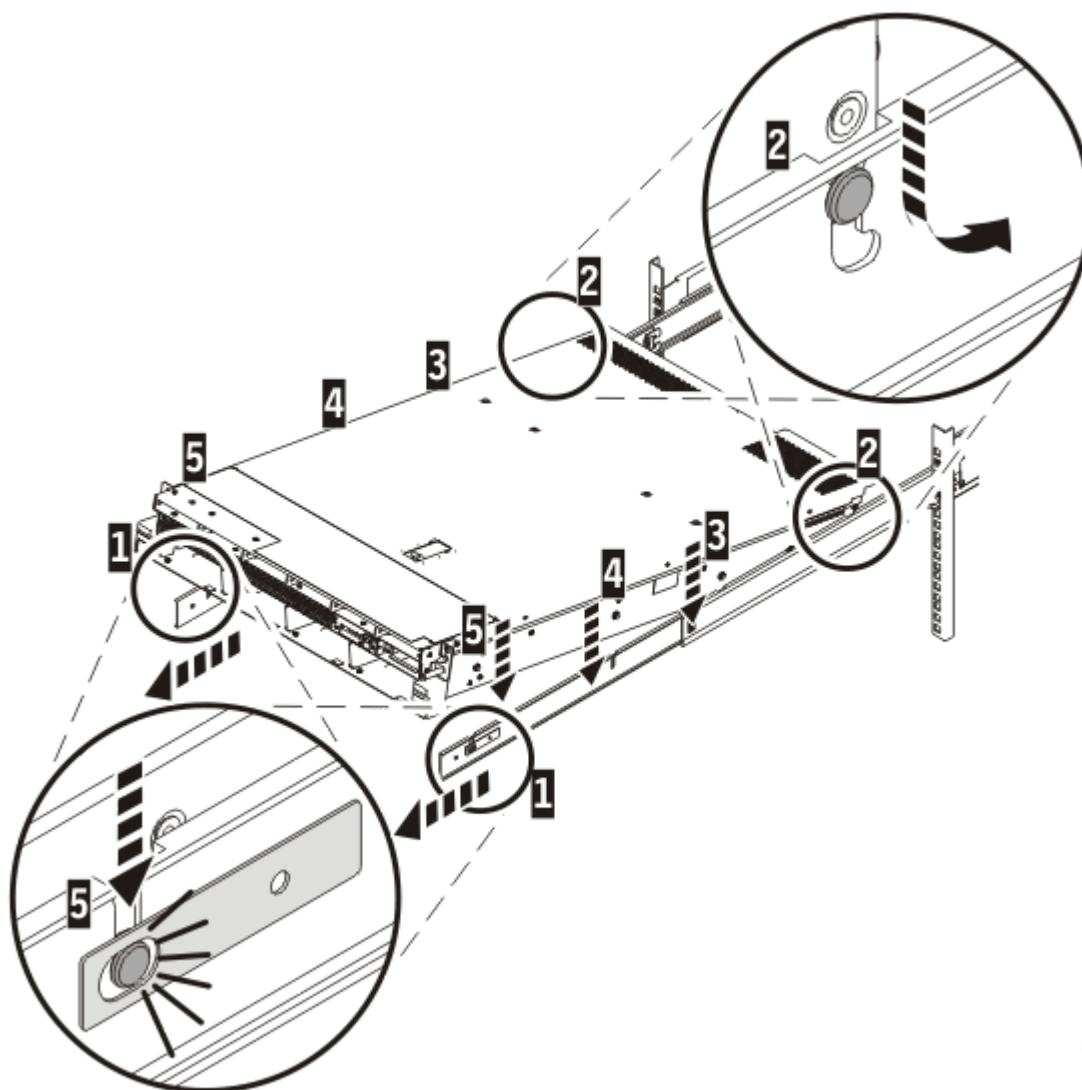


注意: このシステムをラックに取り付けるには、3 人必要です。

このシステムをラックに取り付けるには、以下の手順を実行します。

手順

1. システム背面および前面に配送カバーがあれば、取り外します。
2. 2回カチッと音がする位置までスライド・レールを前方に**(1)**引き出します。サーバーを慎重に持ち上げたら、スライド・レール上でサーバーを傾けて位置合わせし、サーバー後部のくぎの頭**(2)**がスライド・レールの後部スロット**(2)**と揃うようにします。後部のくぎの頭が2つの後部スロットに入るまでサーバーをスライドさせます。次に、残りのくぎの頭がスライド・レールの他のスロットに収まるまで、サーバーの前部**(3)**、**(4)**をゆっくりと下ろします。前面ラッチ**(5)**がくぎの頭の上をスライドし、音を立てて所定の場所に収まることを確認します。



P9EG1504-0

図 6. 取り付け用ハードウェアへのサーバーの設置

3. 両方のレールにあるリリース・ボタン**(1)**を押し、音を立てて所定の位置に収まるまでサーバー**(2)**をラックの中に押し込みます。

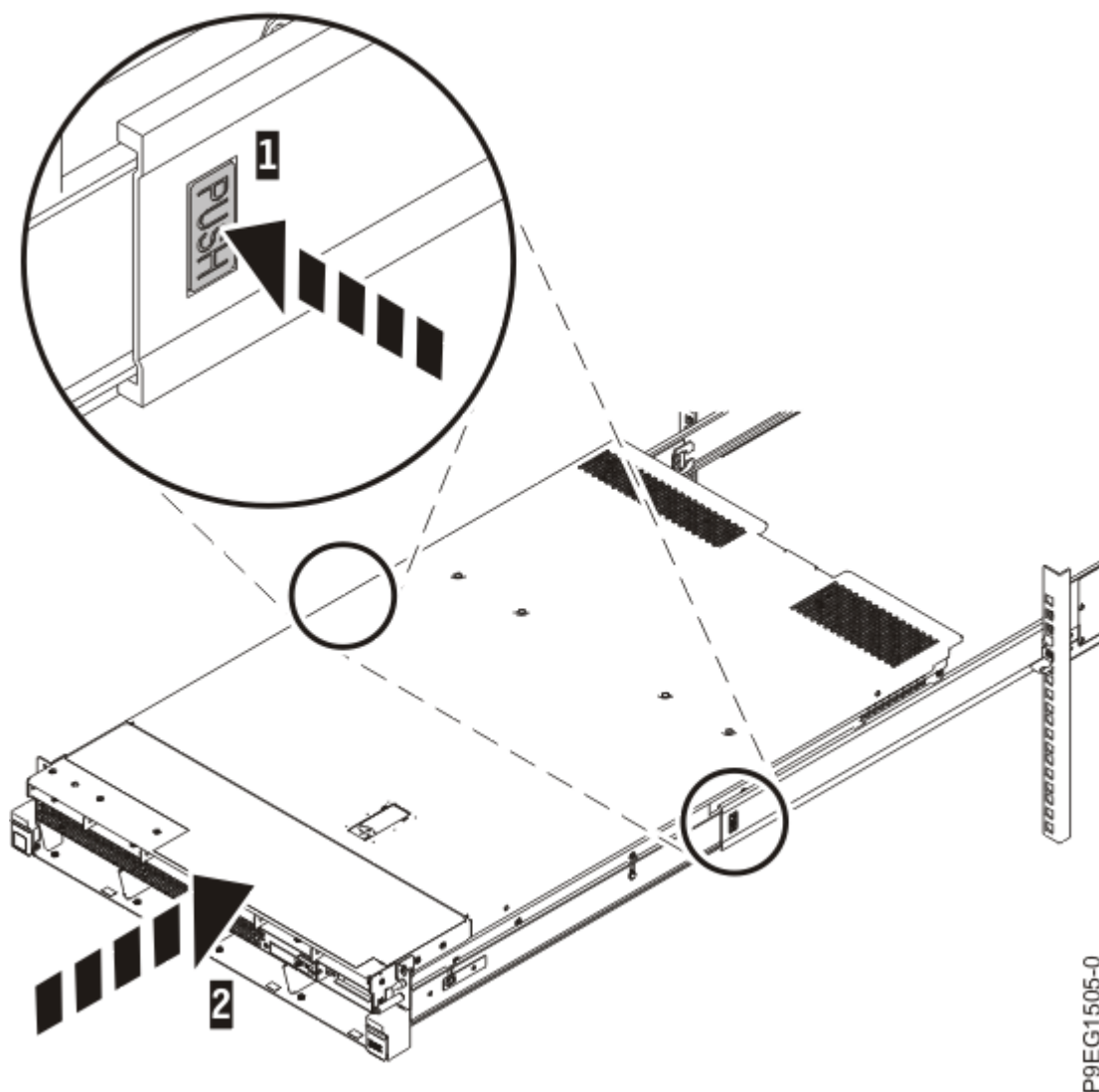


図 7. 両方のレールにあるリリース・ボタンを押して、サーバーをラックに押し込む

ケーブル・マネジメント・アームの取り付け

システムの背面に適切にアクセスできるように、ケーブル・マネジメント・アームを使用して、ケーブルを効率的に配線します。手順を使用して、ケーブル・マネジメント・アームを取り付けます。

このタスクについて

ケーブル・マネジメント・アームを取り付けるには、次の手順を実行してください。

手順

1. 以下の部品が揃っていることを確認します。

項目 説明

- A** ケーブル・マネジメント・アームの内側のタブ
- B** 内側の取り付けブラケット
- C** ケーブル・マネジメント・アームの外側のタブ
- D** 外側の取り付けブラケット
- E** 拡張タブ

項目 説明

F ケーブル・マネジメント・アームの外側のタブ

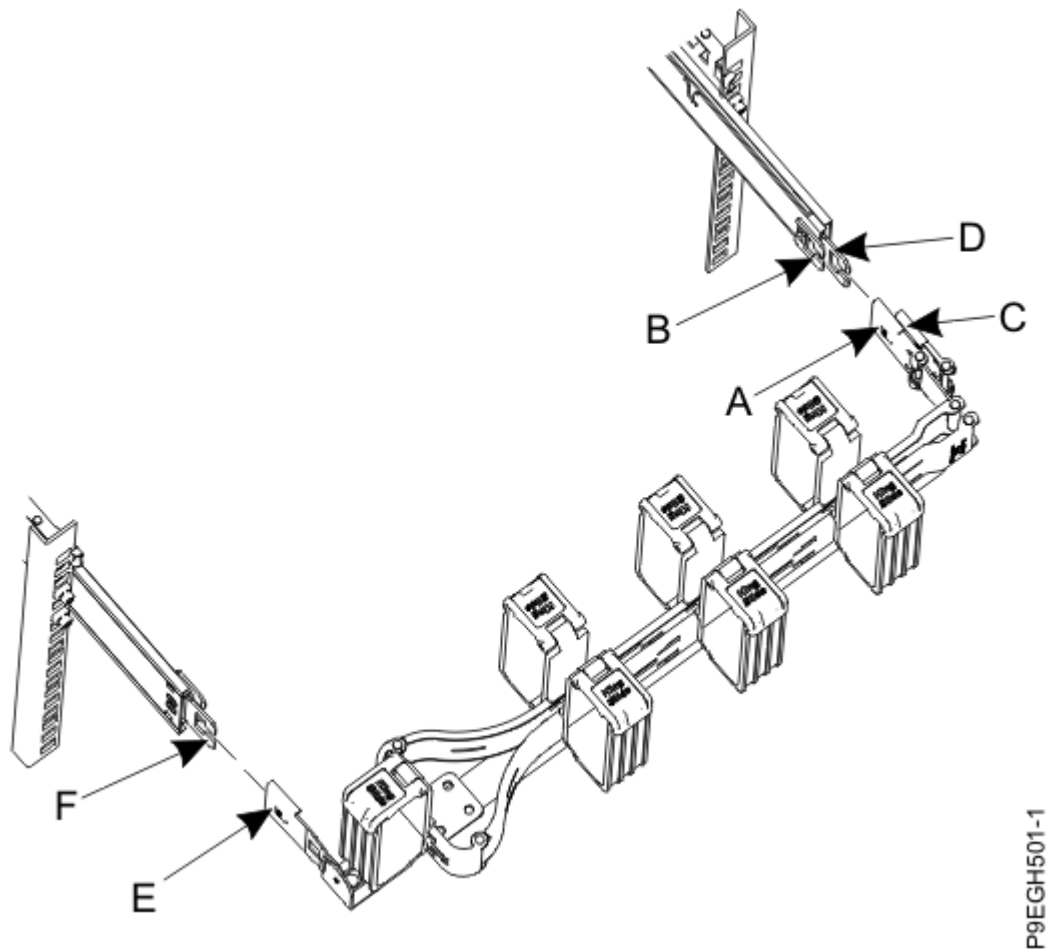


図 8. 組み立て前のケーブル・マネジメント・アームの部品の相対位置

2. ケーブル・マネジメント・アームは、サーバーの左右どちら側にも取り付けることができます。この手順では、サーバーを背面から見ながら、サーバーの右側に取り付ける図が示されています。ケーブル・マネジメント・アームをラックのもう一方の側に取り付ける場合は、拡張タブ **(1)** のボタンを押すと、アームを反対方向 **(2)** に回転させることができます。

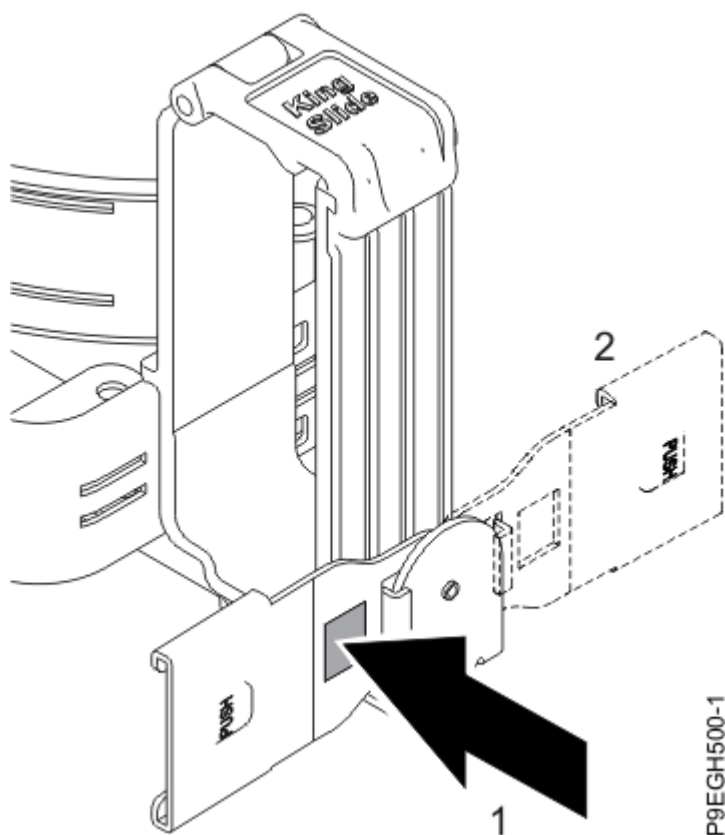


図 9. ケーブル・マネジメント・アーム拡張タブの回転

3. ケーブル・マネジメント・アームの内側のタブ (A) を内側の取り付けブラケット (B) に差し込みます。外側の取り付けブラケット (D) が音を立てて所定の位置に収まるまで、差し込みます。

注: システムを保守位置に置いたときの損傷を防止するために、中央ピンが各アームの間にあることを確認してください。

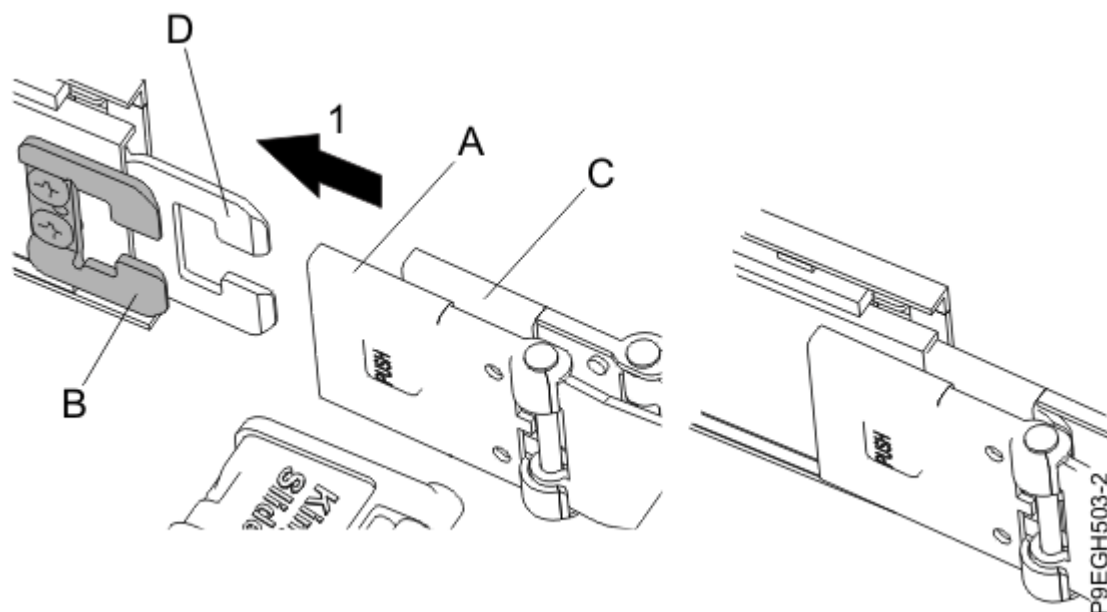


図 10. 取り付けブラケットの挿入

4. ラックの反対側で、拡張タブ (E) をケーブル・マネジメント・アームの外側のタブ (F) に差し込みます。音を立てて所定の位置に収まるまで差し込みます。

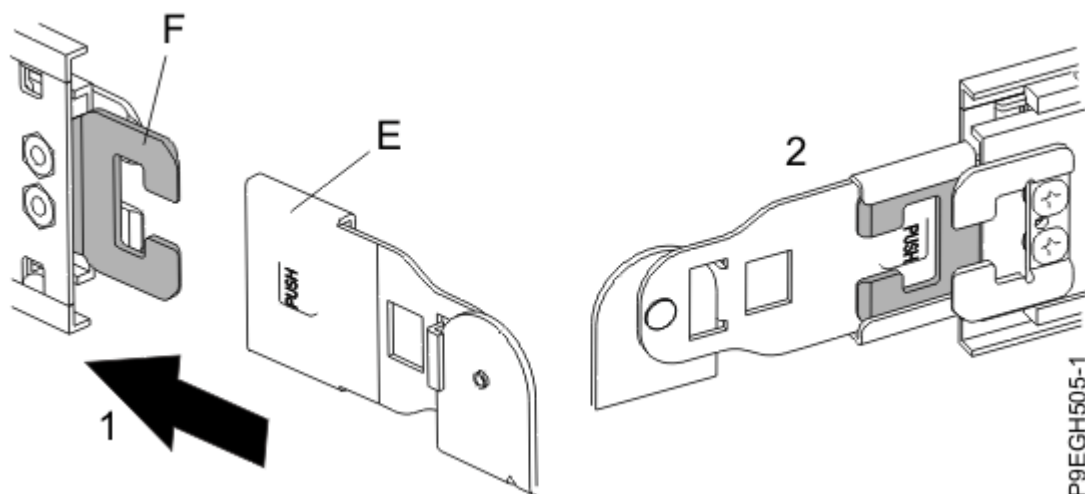


図 11. ケーブル・マネジメント・アームの外側タブへの拡張タブの取り付け

5. ケーブル・マネジメント・アームを通してケーブルを配線するには、以下の手順を実行します。

- ケーブル・マネジメント・アームのラッチを押して各ブラケットを開きます。
- システムを保守位置に拡張します。
- ケーブルをケーブル・マネジメント・アームに通します。
- ブラケットをラッチでロックし直します。ラッチがしっかり取り付けられていることを確認します。

注：ケーブルの直径が大きいほど折り曲げるのが難しくなります。ケーブルの直径が大きい場合は、最初のケーブル・マネジメント・ブラケットの前面にあるケーブルおよびアームの周りに面ファスナーを取り付けてください。ファスナーを取り付けることで、ストレイン・リリーフが追加されます。

サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ

コンソール、モニター、またはインターフェースを選択する際は、論理区画を作成するかどうか、1 次区画にどのようなオペレーティング・システムをインストールするか、および論理区画の 1 つに Virtual I/O Server (VIOS) をインストールするかどうかを考慮します。

使用するコンソールの決定

コンソール、モニター、またはインターフェースを選択する際は、論理区画を作成するかどうか、1 次区画にどのようなオペレーティング・システムをインストールするか、および論理区画の 1 つに Virtual I/O Server (VIOS) をインストールするかどうかを考慮します。

次の表の該当するコンソール、インターフェース、または端末についての手順に進んでください。

表 1. 使用可能なコンソール・タイプ				
コンソール・タイプ	オペレーティング・システム	論理区画	必要なケーブル	ケーブル接続セットアップ手順
ASCII 端末	AIX®、Linux®、または VIOS	はい (VIOS の場合)、いいえ (AIX および Linux の場合)	ヌル・モデムが装備されたシリアル・ケーブル	13 ページの『サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続』
ハードウェア管理コンソール (HMC)	AIX、IBM i、Linux、または VIOS	はい	イーサネット (またはクロスケーブル)	14 ページの『HMC へのサーバーのケーブル接続』
オペレーション・コンソール (Operations Console)	IBM i	はい オペレーション・コンソールを使用して既存の IBM i 区画を管理します。	LAN 接続用のイーサネット・ケーブル	15 ページの『サーバーのケーブル接続とオペレーション・コンソールへのアクセス』

表 1. 使用可能なコンソール・タイプ (続き)				
コンソール・タイプ	オペレーティング・システム	論理区画	必要なケーブル	ケーブル接続セットアップ手順
キーボード、ビデオ、およびマウス (KVM)	Linux または VIOS	はい	KVM が装備されたモニター・ケーブルおよび USB ケーブル	18 ページの『サーバーとキーボード、ビデオ、およびマウスとのケーブル接続』

サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続

論理区画を作成しない場合は、ASCII 端末を使用して AIX、Linux、あるいは VIOS オペレーティング・システムが稼働しているサーバーを管理することができます。ASCII 端末から Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスして、追加のインストール作業を実行することができます。

このタスクについて

ASCII 端末は、シリアル・リンクを介してサーバーに接続されます。ASMI への ASCII インターフェースは、Web インターフェース 機能のサブセットを提供します。ASMI インターフェースの ASCII 端末は、システムがスタンバイ 状態のときにのみ使用可能です。初期プログラム・ロード (IPL) 中またはランタイムには使用できません。

注：ASMI 端末への接続にシリアル接続を使用する場合は、変換ケーブルを使用する必要があります。このケーブル (部品番号 46K5108) は、ASCII 端末の 9 ピン D シェル・コネクタを、システムの RJ45 シリアル・ポート・コネクタに変換するために使用されます。システム上のコネクタの位置については、[部品の位置とロケーション・コード](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9ecs/p9ecs_locations.htm) (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9ecs/p9ecs_locations.htm) を参照してください。

ASCII 端末をサーバーにケーブル接続するには、次の手順を実行してください。

手順

1. ヌル・モデムを備えたシリアル・ケーブルを使用して、サーバー背面のシリアル・ポートに ASCII 端末を接続します。
2. 以下の手順を実行します。
 - a. 電源コードのプラグを電源装置に差し込みます。

注：システムの背面にあるポートを覆っているプラグがある場合は、取り外して廃棄してください。ポート・カバーがあると、初期プログラム・ロード (IPL) の完了後に管理対象システムの管理者パスワードのリセットが必要であることを必ず思い出します。
 - b. システム電源コード、および他のすべての接続デバイスの電源コードを電源に差し込みます。
 - c. システムで電力配分装置 (PDU) を使用する場合は、次の手順を実行します。
 - 1) システム電源コードを、サーバーと入出力ドロワーから IEC 320 タイプ・コンセントを備えた PDU に接続します。
 - 2) PDU 入力電源コードを接続し、電源に差し込みます。
 - 3) システムで予備用に PDU を 2 台使用する場合は、次の手順を実行します。
 - ・システムに電源装置が 2 つある場合は、この 2 つの PDU のそれぞれに電源装置を 1 つずつ接続します。
 - ・システムに電源装置が 4 つある場合は、E1 と E2 のプラグを **PDU A** に、E3 と E4 のプラグを **PDU B** に差し込みます。

注：システムが待機モードであることを確認します。前面コントロール・パネルの緑色の電源状況標識が明滅し、電源装置の DC OUT 表示ライトが明滅しています。どの標識も明滅していない場合は、電源コードの接続を確認してください。
3. コントロール・パネルの緑色のライトが明滅し始めるまで待ちます。
4. ASCII 端末が以下の一般的な属性に設定されていることを確認します。

これらの属性は診断プログラム用のデフォルト設定です。端末がこれらの属性に従って設定されていることを確認してから、次のステップに進みます。

表 2. 診断プログラム用のデフォルトの設定値				
一般のセットアップ属性	3151 /11/ 31/41 の 設定	3151 /51/ 61 設定	3161 /64 設定	説明
回線速度	19,200	19,200	19,200	19,200 (ビット/秒) の回線速度を使用して、システム装置と通信します。
ワード長 (ビット)	8	8	8	データ・ワード長 (バイト) として 8 ビットを選択します。
パリティ	いいえ	いいえ	いいえ	パリティ・ビットは追加されません。ワード長属性と一緒に使用して、8 ビットのデータ・ワード (バイト) を形成します。
ストップ・ビット	1	1	1	データ・ワード (バイト) の後に 1 ビットを置きます。

5. ASCII 端末のキーを押して、サービス・プロセッサに ASCII 端末の存在を確認させます。
6. ASMI のログイン画面が表示されたら、ユーザー ID およびパスワードに **admin** と入力します。
7. プロンプトが表示されたら、デフォルトのパスワードを変更します。
8. サーバー情報が表示されるまで、Enter キーを押します。
ASCII 端末のセットアップが完了し、ASMI が開始されました。
9. [19 ページの『サーバーのセットアップを完了します』](#)に進みます。

HMC へのサーバーのケーブル接続

ハードウェア管理コンソール (HMC) は、論理区画の管理、仮想環境の作成、およびキャパシティー・オンデマンドの使用を含め、管理対象システムを制御します。HMC は、サービス・アプリケーションを使用して管理対象システムと通信し、情報の検出と統合整理を行い、分析のために IBM サービスに情報を転送します。

始める前に

HMC のインストールおよび構成がまだ済んでいない場合は、この時点で行ってください。手順については、[インストールおよび構成のタスク \(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hai/p9hai_taskflow.htm\)](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hai/p9hai_taskflow.htm) を参照してください。

POWER9 プロセッサ・ベースのシステムを管理するには、HMC はバージョン 9 リリース 9.2.0 以降である必要があります。HMC のバージョンおよびリリースを表示するには、次の手順を実行してください。

1. ナビゲーション領域で「更新」をクリックします。
2. 作業領域で「HMC コード・レベル」セクションに表示されている情報を確認して記録します。この情報には、HMC のバージョン、リリース、サービス・パック、ビルド・レベル、および基本バージョンが含まれています。

サーバーを HMC にケーブル接続するには、次の手順を実行してください。

手順

1. HMC を管理対象システムに直接接続する場合は、HMC の **イーサネット・コネクタ 1** を管理対象システムの **HMC1** ポートに接続します。

注：HMC1 ポートと HMC2 ポートを同じサブネット上で使用しないでください。

2. HMC に接続されているスイッチに複数のシステムを接続することもできます。手順については、[HMC ネットワーク接続 \(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hai/p9hai_netconhmc.htm\)](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hai/p9hai_netconhmc.htm) を参照してください。

注:

- スイッチを使用する場合は、スイッチの速度を必ず **Autodetection** に設定してください。サーバーが HMC に直接接続されている場合は、HMC のイーサネット・アダプター速度を必ず **Autodetection** に設定してください。メディア速度の設定方法については、[メディア速度の設定 \(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hai/p9hai_lanmediaspeed_enh.htm\)](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hai/p9hai_lanmediaspeed_enh.htm) を参照してください。
- 3. 2 台目の HMC を管理対象サーバーに接続する場合は、管理対象サーバー上で **HMC2** というラベルの付いたイーサネット・ポートに接続してください。
- 4. [18 ページの『サーバーのケーブル接続および拡張装置の接続』](#)に進みます。

サーバーのケーブル接続とオペレーション・コンソールへのアクセス

オペレーション・コンソールを使用すると、論理区画の有無にかかわらず IBM i オペレーティング・システムが稼働するサーバーを管理することができます。

始める前に

IBM i への LAN 接続および以下のいずれかのクライアントを使用して、オペレーション・コンソールにアクセスできます。

- IBM i Access for Windows バージョン 7.1 (最新のサービス・パック適用済み)。オペレーション・コンソールを使用して、このプログラムにアクセスします。このプログラムは、バージョン 7.2 以前を実行中の IBM i システムにのみ接続します。
- [IBM i Access Client Solutions \(http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805\)](http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805) (IBM i 7.3 以降を実行中のすべてのシステムに必要)。

サーバーをケーブル接続してオペレーション・コンソールにアクセスするには、以下の手順を実行してください。

1. サーバーが電源オフになっていることを確認します。
2. コンソールでできるように、サーバーの LAN コンソール・アダプターに割り当てられる静的 IP アドレスを取得します。インターネット・プロトコル (IP) アドレス、サブネット・マスク、およびデフォルト・ゲートウェイをメモしておいてください。オプションで、固有のホスト名を選択し、そのホスト名、およびご使用のサイトのドメイン・ネーム・システム (DNS) 内の IP アドレスを登録します。

注: この IP アドレスは IBM i インターフェースでオペレーション・コンソール・スタックが使用するもので、通常の Telnet セッションを接続するために使用される IP アドレスとは異なります。この IP アドレスは、別のサーバーが使用中のアドレスであってはなりません。ネットワークに接続された PC でこの IP アドレスを ping して、他のデバイスがこの IP アドレスを使用していないことを確認してください。応答を受信しないはずです。

オペレーション・コンソールをセットアップするには、以下の手順を実行します。

1. ネットワークに接続されたパーソナル・コンピューターに、[IBM i Access Client Solutions \(ACS\) \(http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805\)](http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805) をインストールします。

注: Access Client Solutions をワークステーションで実行するには、Java JRE をインストールする必要があります。ACS は Java ベースのプログラムであるため、ACS の実行には JRE が必要です。PC にインストールできる Java JRE のバージョンについては、[IBM i Access Client Solutions \(http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805\)](http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=isg3T1026805) Web サイトで入門ガイドを参照してください。

注: ローカル管理者として PC にログオンすることをお勧めします。そうすることによって、PC および ACS を変更してコンソール・セッションを開始するために必要なすべての特権を持つことができます。また、必ず最新バージョンの ACS を実行してください。

2. PC をサーバーにケーブル接続します。Cat 5e または Cat 6 (推奨) イーサネット・ケーブルを PC および正しいイーサネット・アダプター・ポートに接続します。使用しなければならないサーバー・アダプター・ポートを確認するには、次の表を参照してください。

注: アダプター上でのコンソール接続には T1 リソースが必要です。T1 リソースは、上部または右端にあるポートです (システムをどの向きに置いているかに応じて異なります)。

表 3. サーバーのオペレーション・コンソール LAN ポート	
サーバー	オペレーション・コンソール - LAN ポート
9009-41A および 9009-41G	C5, C6, C7, C8, C9, C10, C11, C12
9009-42A, 9009-42G, および 9223-42H	C2, C3, C4, C5, C6, C7, C8, C9, C10, C11, C12

注：サーバーに直接ケーブル接続された PC との初期接続を行います。PC とサーバーは、初期接続を行ってオペレーション・コンソール・ポートに静的 IP アドレスが割り当てられた後で、ネットワークにケーブル接続し直すことができます。クロスケーブルは不要です。詳しくは、『アダプターの要件 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hbx/hardwarereq_adapter.htm) を参照してください。

3. PC ネットワークを構成します。PC ネットワークを構成するには、以下の手順を実行してください。

- Windows のコントロール・パネルを開き、アダプター設定にアクセスします。Windows 10 を使用している場合は、「コントロールパネル」>「ネットワークとインターネット」>「ネットワークと共有センター」>「アダプターの設定の変更」を選択します。
- ローカル・エリア接続を除き、追加のアダプターをすべて使用不可にします。
- アダプターを右クリックして、「プロパティ」を選択します。
- 「インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)」をクリックして「プロパティ」を選択します。

注：オペレーション・コンソールをセットアップした後でデバイスをネットワークに戻す場合は、表示される IP 情報を記録しておいてください。

- 「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。これによって、PC が 169.254.x.x 範囲の IP アドレスを受信します。

4. PC ファイアウォールを使用不可にするには、次の手順を実行してください。

注：初期接続では、すべての PC ファイアウォールを使用不可にする必要があります。

- Windows の「コントロールパネル」で、「ファイアウォールの設定」をクリックし、ファイアウォールを使用不可にします。
- Windows の「コントロールパネル」で、「セキュリティ センター」をクリックします。ファイアウォールがあるか確認し、ある場合は使用不可にします。
- PC で実行中のすべてのタスクをスキャンして他のソフトウェア・ファイアウォールがあるか確認し、そのファイアウォールを使用不可にします。

5. 以下の手順を実行して、サーバーの電源をオンにします。

- 手動による初期プログラム・ロード (IPL) の設定を、以下の手順で実行します。

- サーバーのコントロール パネルを見つけます。サーバー前面の青いタブを見つけます。そのタブを横に押して、コントロール・パネルをゆっくり引き出します。
- 02** が表示されるまで上矢印キーを押して、Enter を押します。
- 再度、Enter キーを押します。◀ (より小記号) が、「N」の横に表示されます。
- 上矢印キーを押します。N が M に変わります。
- Enter キーを押します。
- Enter キーを 2 回押します。コントロール・パネルに **02** が表示されます。

- サーバーを手動 IPL に設定したら、白い電源ボタンを押してサーバーの電源をオンにします。

注：IPL 中、システムはオペレーション・コンソールを検索していることを示す C6004031 をコントロール・パネルに表示します。システムがこのアクションを完了するのに、20 分から 30 分掛かる場合があります。コントロール・パネルに A6005008 が表示された場合は、使用可能なオペレーション・コンソールはありません。これは、システムに IBMi がプリインストールされていないため、コンソール・タイプを LAN に設定する必要があることを示している場合があります。

6. このステップは、システムに IBMi がプリインストールされていない場合に実行します。コンソール・タイプを LAN に設定するためには、以下の手順を実行してください。

- a. 以下の手順を実行して、コントロール・パネルの機能を使用可能にします。
- 1) コントロール・パネルで機能 25 を選択して、Enter キーを押します。戻りコードは 00 でなければなりません。
 - 2) コントロール・パネルで機能 26 を選択して、Enter キーを押します。
- 注：FF 戻りコードが表示された場合は、機能 25 に戻って Enter キーを押します。その後、機能 26 に戻って Enter キーを押します。
- b. 現在の設定を確認します。コンソールのサービス機能 (65+21+11) を使用して、現在の設定を確認します。
- A600 500A = 定義済みのコンソールなし
 - A601 500A = 平衡型コンソール
 - A602 500A = ダイレクト・ケーブル・コンソール
 - A603 500A = LAN コンソール
 - A604 500A = HMC コンソール
- システム参照コード (SRC) が A603500A の場合は、ステップ 17 ページの『7』にスキップします。SRC がこれ以外の場合はいずれも、次のステップに進みます。
- c. 以下のステップを実行して、コンソール・タイプを LAN に設定します。
- 1) A603500B が返されるまで、65+21+11 のシーケンスを使用します。このコードは、コンソール・タイプが LAN に変更されることを表します。
 - 2) A603500C が返されるまで、21+11 のシーケンスを使用します。このコードは、設定が正常に保存されたことを表します。A603500C への切り替えの前にシステムが他のいくつかの SRC を循環することがあります。これらの SRC は、コンソール・タイプを変更するためにドライブ・チェックとディスク・チェックが実行されていることを示します。
- 注：65+21+11 機能は、今後は IBM サポートからの指示がない限り不要です。アダプター位置を設定するための機能は、LIC によって自動的に実行されるようになりました。
7. 以下の手順を実行して、オペレーション・コンソールを接続します。
- a. Access Client Solutions を開きます。
 - b. 「管理」の下にある「システム構成」をクリックします。
 - c. 「コンソールの検索 (Locate Console)」を選択します。
 - d. 「近くのコンソールを検索 (Find Console Near)」チェック・ボックスと「フィルター」チェック・ボックスが選択されていないことを確認します。
 - e. 「検索」をクリックします。接続が表示されます。接続をクリックしてから、「コンソール」をクリックします。
 - f. 「保留中の権限」ウィンドウで、ユーザー ID およびパスワードに 11111111 を入力します。
 - g. セキュリティ証明書を受け入れます。これは必ず受け入れてください。そうしないと、接続を続行できません。コンソール・ウィンドウが開きます。最初にウィンドウがブランクでカーソルが左上隅にある場合は、ドライブまたは DVD が表示情報を提供するまで画面が待機中であることを示します。
8. オペレーション・コンソールの静的 IP アドレスを設定するには、以下の手順を実行します。
- a. DST メインメニュー **b** で、「オプション 3 - 専用保守ツールの使用 (Use Dedicated Service Tools)」を選択します。
 - b. QSECOFR にサインオンします。デフォルトのパスワードは QSECOFR で、大/小文字の区別がありません。
 - c. 「オプション 5 - DST 環境の処理」を選択します。
 - d. 「オプション 2 - システム・デバイス」を選択します。
 - e. 「オプション 7 - 保守ツール LAN アダプターの構成」を選択します。

- f. 使用する IP 設定を入力します。オプション: 保守ツールのホスト名には、ホスト名がネットワーク DNS にも登録されていれば、ホスト名を入力することができます。Default と入力して、使用する IP アドレスを入力することをお勧めします。
 - g. F7 を押して情報を保管します。
 - h. F17 を押してセッションを「非活動化」し、もう一度 F17 を押して「活動化」します。これによって、セッションがブランクになります。セッションを閉じます。
9. 静的 IP への接続を作成するには、以下の手順を実行します。
- a. PC とオペレーション・コンソール・ポートの両方をネットワークに移動するか、PC の IP 設定を再構成して、保守ツール LAN アダプター用に構成したばかりのサブネットと同じサブネットに入れます。
 - b. ACS インターフェースに戻り、「システム構成」というラベルの付いたウィンドウを選択します。
 - c. 「新規」をクリックします。
 - d. この接続を使用して他の機能に接続する場合は、使用する予定のシステム名を「一般」タブに入力します。
 - e. 「コンソール」タブをクリックします。
 - f. 「LAN コンソール/仮想コントロール (LAN Console/Virtual Control)」パネルで、「サービス・ホスト名 (Service Host Name)」フィールドに保守ツール LAN アダプターの IP アドレスを入力します。
 - g. 「了解」をクリックします。
 - h. メインの ACS メニューで、「システム」をクリックして、作成したシステムを選択します。
 - i. 「コンソール」の下で「5250 コンソール」をクリックします。IPL を続行してください。

注: PC の IP 構成をリセットしてから、PC をネットワークに再度ケーブル接続する必要があります。この PC がゲートウェイ IP アドレスを使用して構成されているためです。これで、PC とサーバー・コンソール・ポート (T1) をネットワークにケーブル接続し直すことができます。

19 ページの『サーバーのセットアップを完了します』に進みます。

サーバーとキーボード、ビデオ、およびマウスとのケーブル接続

グラフィックス・カードが存在する場合には、システムを始動する前に、キーボード、ビデオ、およびマウスをシステムに接続することが必要な場合があります。

このタスクについて

キーボード、ビデオ、およびマウスを接続するには、以下の手順を実行してください。

手順

1. システム背面にあるグラフィックス・カードおよび USB (ユニバーサル・シリアル・バス) ポートを見つけてください。コネクタ変換器が必要になる場合もあります。
2. モニター・ケーブルをグラフィックス・カードに接続します。
3. キーボードとマウスを、青色の USB 3.0 ポートに接続します。
4. コンソールの電源をオンにします。
5. 18 ページの『サーバーのケーブル接続および拡張装置の接続』に進みます。

サーバーのケーブル接続および拡張装置の接続

サーバーのケーブル接続方法および拡張装置の接続方法について説明します。

このタスクについて

サーバーのケーブル接続および拡張装置の接続を行うには、以下の手順を実行してください。

手順

1. 以下の手順を実行します。
 - a. 電源コードのプラグを電源装置に差し込みます。

注: システムの背面にあるポートを覆っているプラグがある場合は、取り外して廃棄してください。ポート・カバーがあると、初期プログラム・ロード (IPL) の完了後に管理対象システムの管理者パスワードのリセットが必要であることを必ず思い出します。

- b. システム電源コード、および他のすべての接続デバイスの電源コードを電源に差し込みます。
- c. 管理対象システムの電源をオンにします。
- d. システムで電力配分装置 (PDU) を使用する場合は、次の手順を実行します。
 - 1) システム電源コードを、サーバーと入出力ドロワーから IEC 320 タイプ・コンセントを備えた PDU に接続します。
 - 2) PDU 入力電源コードを接続し、電源に差し込みます。
 - 3) システムで予備用に PDU を 2 台使用する場合は、次の手順を実行します。
 - システムに電源装置が 2 つある場合は、この 2 つの PDU のそれぞれに電源装置を 1 つずつ接続します。
 - システムに電源装置が 4 つある場合は、E1 と E2 のプラグを **PDU A** に、E3 と E4 のプラグを **PDU B** に差し込みます。

注: システムが待機モードであることを確認します。前面コントロール・パネルの緑色の電源状況標識が明滅し、電源装置の DC OUT 表示ライトが明滅しています。どの標識も明滅していない場合は、電源コードの接続を確認してください。

2. エンクロージャーおよび拡張装置の接続については、『エンクロージャーおよび拡張装置』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9ham/p9ham_kickoff.htm) を参照してください。

サーバーのセットアップを完了します

管理対象システムのセットアップのために 実行する必要がある作業について説明します。

以下のオプションから選択します。

- [19 ページの『HMC を使用してのサーバー・セットアップの完了』](#)
- [21 ページの『HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了』](#)

HMC を使用してのサーバー・セットアップの完了

ハードウェア管理コンソール (HMC) を使用してサーバー・セットアップを完了するには、以下の作業を行います。仮想化を使用して、複数のワークロードを少ない数のシステムに統合してサーバー使用量を増やし、コストの低減を始めることもできます。

始める前に

POWER9 プロセッサ・ベースのシステムを管理するには、HMC はバージョン 9 リリース 1 以降である必要があります。

ご使用のシステムにオペレーティング・システムがプリインストールされている場合は、コンソールを開き、オペレーティング・システムにアクセスできるように、MDC (工場出荷時デフォルト構成) モードを終了する必要があります。MDC モードを終了するには、以下の手順を実行します。

1. 「リソース」 > 「すべてのシステム」を選択します。
2. 「システム」 > 「システム・アクション」 > 「システム区画の表示」を選択します。
3. 「属性」で、「一般設定」を選択します。
4. 「電源オン・パラメーター」を選択して、「区画開始ポリシー」を「ユーザーによる開始」に設定します。

このタスクについて

HMC を使用してサーバー・セットアップを完了するには、次の手順を実行してください。

手順

1. システムに付属の配送用ねじを使用してサーバーをラックに取り付けます。
2. 管理対象システムのパスワードを変更するには、次の手順を実行してください。

HMC を使用した管理対象システムのパスワード設定について詳しくは、管理対象システムに対するパスワードの設定 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hai/p9hai_setpassword_enh.htm)を参照してください。

3. Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、管理対象システムの時刻を更新します。

HMC を使用して ASMI にアクセスするには、以下のステップを実行します。

- a. コンテンツ領域で、管理対象システムを選択します。
- b. 「アクション」 > 「すべてのアクションの表示」 > 「拡張システム管理 (ASM) の起動」を選択します。
- c. 管理者のユーザー ID とパスワードを使用して、ASMI にログオンします。
- d. 「システム構成」 > 「時刻」を選択します。
- e. 時刻を調整します。
- f. 「設定の保管」を選択します。

4. ASMI を使用して「Spectre」および「Meltdown」の脆弱性に対処することにより、投機的実行を制御します。

ASMI を使用して「Spectre」および「Meltdown」の脆弱性に対処することにより、投機的実行を制御するには、以下の手順を実行してください。

- a. ASMI インターフェースで、「システム構成」 > 「投機的実行の制御 (Speculative Execution Control)」を選択します。
- b. 使用する制御オプションを選択します。「投機的実行の制御 (Speculative Execution Control)」について詳しくは、「Spectre」および「Meltdown」の脆弱性に対する POWER9 サーバーの保護 (Protecting your POWER9 servers against the “Spectre” and “Meltdown” vulnerabilities) (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hby/p9hby_speculative_execution_control.htm)を参照してください。

5. 管理対象システムのファームウェア・レベルを確認します。

- a. ナビゲーション領域で「更新」をクリックします。
- b. コンテンツ領域で、管理対象システムを選択します。
- c. 「アクション」 > 「更新」 > 「ライセンス内部コードの変更」 > 「現行リリースを対象」を選択します。
- d. 「システム情報の表示」を選択してから、「了解」をクリックします。
- e. 「LIC リポジトリの指定」ウィンドウで、「なし - 現在の値の表示」を選択してから、「了解」をクリックします。
- f. 「EC 番号」フィールドおよび「活動化レベル (Activated Level)」フィールドに表示されるレベルを記録します。例えば、「EC 番号」が 01EM310 で、「活動化レベル (Activated Level)」が 77 の場合、ファームウェア・レベルは 01EM310_77 になります。

6. インストール済みのファームウェア・レベルと使用可能なファームウェア・レベルを比較します。必要に応じて、ファームウェア・レベルを更新します。

- a. インストール済みのファームウェア・レベルと使用可能なファームウェア・レベルを比較します。詳しくは、Fix Central の Web サイト (<http://www.ibm.com/support/fixcentral>) を参照してください。
- b. 必要に応じて、管理対象システムのファームウェア・レベルを更新します。ナビゲーション領域で「更新」を選択します。
- c. コンテンツ領域で管理対象システムを選択します。
- d. 「現行リリースのライセンス内部コードの変更」をクリックします。

7. ご使用のシステムにオペレーティング・システムがプリインストールされている場合は、コンソールを開き、ご使用のオペレーティング・システムにアクセスできるように MDC (工場出荷時デフォルト構成) モードを終了する必要があります。

MDC モードを終了するには、以下の手順を実行します。

- a. 「リソース」 > 「すべてのシステム」を選択します。

- b. 「システム」 > 「アクション」 > 「システム区画の表示」を選択します。
- c. 「属性」で、「一般設定」を選択します。
- d. 「電源オン・パラメーター」を選択して、「区画開始ポリシー」を「ユーザーによる開始」に設定します。
- e. 「システム・アクション」で、「操作」 > 「電源オン」を選択します。
- f. システムが区画スタンバイ 状態になり、デフォルト区画が非活動 状態になったら、デフォルト区画を選択して、「活動化」を選択します。

HMC を使用したシステムまたは論理区画の始動について詳しくは、[HMC を使用したシステムまたは論理区画の始動](#)を参照してください。

- 8. 管理対象システムの電源をオンにするために、以下の手順を完了します。
 - a. コンテンツ領域で、管理対象システムを選択します。
 - b. 「アクション」 > 「すべてのアクションの表示」 > 「パワー・マネジメント」を選択します。
 - c. 使用する電源オン・オプションを選択して、「了解」をクリックします。
- 9. テンプレートを使用して区画を作成します。
 - ・ 新しい区画を作成する場合、ご使用の HMC 上にあるテンプレートを使用できます。詳しくは、[テンプレート・ライブラリーへのアクセス \(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9efc/p9efc_accessing_template_library.htm\)](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9efc/p9efc_accessing_template_library.htm) を参照してください。
 - ・ 別のシステム上に既存の区画がある場合は、それらの構成を取り込み、テンプレート・ライブラリーに保存し、区画テンプレートをデプロイすることができます。詳しくは、[区画テンプレート \(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9efc/p9efc_partition_template_concept.htm\)](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9efc/p9efc_partition_template_concept.htm) を参照してください。
 - ・ 別のソースからの既存のテンプレートを使用したい場合は、そのテンプレートをインポートして使用できます。詳しくは、[区画テンプレートのインポート \(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9efc/p9efc_import_partition_template.htm\)](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9efc/p9efc_import_partition_template.htm) を参照してください。
- 10. オペレーティング・システムをインストールして更新します。
 - ・ AIX オペレーティング・システムをインストールします。手順については、『[AIX のインストール](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hdx/p9hdx_installaix.htm)』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hdx/p9hdx_installaix.htm) を参照してください。
 - ・ Linux オペレーティング・システムをインストールします。手順については、『[Linux のインストール](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hdx/p9hdx_installlinux.htm)』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hdx/p9hdx_installlinux.htm) を参照してください。
 - ・ VIOS オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[VIOS のインストール \(https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hb1/p9hb1_vios_install.htm\)](https://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hb1/p9hb1_vios_install.htm) を参照してください。
 - ・ IBM i オペレーティング・システムをインストールします。手順については、[IBMi オペレーティング・システムのインストール \(http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hdx/p9hdx_ibmi.htm\)](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hdx/p9hdx_ibmi.htm) を参照してください。
- 11. これで、サーバーを設置する手順は完了しました。

HMC を使用しないサーバー・セットアップの完了

ハードウェア管理コンソール (HMC) がいない場合は、以下の手順を使用して、サーバー・セットアップを実行します。

このタスクについて

管理コンソールを使用せずにサーバー・セットアップを完了するには、次の手順を実行します。

手順

- 1. システムに付属の配送用ねじを使用してサーバーをラックに取り付けます。
- 2. 管理対象システムのファームウェア・レベルおよび時刻を確認するには、以下の手順を実行してください。

- a. Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスします。手順については、HMC を使用しない ASMI へのアクセス (www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hby/connect_asmi.htm) を参照してください。
 - b. 「ASMI へようこそ」 ペインで、著作権文の下 の右上隅に表示される既存のサーバー・ファームウェアのレベルをメモします。
 - c. 時刻を更新します。ナビゲーション領域で、「システム構成」を展開します。
 - d. 「時刻」をクリックします。コンテンツ・ペインに、現在の日付 (月、日、年) と時刻 (時、分、秒) を示す書式が表示されます。
 - e. 日付値、時刻値、またはその両方を変更して、「設定の保管」をクリックします。
3. ASMI を使用して「Spectre」および「Meltdown」の脆弱性に対処することにより、投機的実行を制御します。
- ASMI を使用して「Spectre」および「Meltdown」の脆弱性に対処することにより、投機的実行を制御するには、以下の手順を実行してください。
- a. ASMI インターフェースで、「システム構成」 > 「投機的実行の制御 (Speculative Execution Control)」を選択します。
 - b. 使用する制御オプションを選択します。「投機的実行の制御 (Speculative Execution Control)」について詳しくは、「Spectre」および「Meltdown」の脆弱性に対する POWER9 サーバーの保護 (Protecting your POWER9 servers against the “Spectre” and “Meltdown” vulnerabilities) (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hby/p9hby_speculative_execution_control.htm) を参照してください。
4. システムを始動するには、以下の手順を実行してください。
- a. 管理対象システムの前面ドアを開きます。
 - b. コントロール・パネル上の電源ボタンを押します。
- パワーオン表示ライトが高速で明滅を始める。
- a. 約 30 秒後にシステム冷却ファンが始動し、運転速度が加速し始める。
 - b. システムの始動中に、進行インジケータがコントロール・パネルに表示されます。
 - c. コントロール・パネルのパワーオン表示ライトが明滅を停止して、点灯したままになり、システム電源がオンであることを示します。
- 手順については、HMC が管理しないシステムの始動 (www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9haj/startsysnohmc.htm) を参照してください。
5. オペレーティング・システムをインストールして更新します。
- AIX オペレーティング・システムをインストールします。手順については、『AIX のインストール』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hdx/p9hdx_installaix.htm) を参照してください。
 - Linux オペレーティング・システムをインストールします。手順については、『Linux のインストール』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hdx/p9hdx_installinux.htm) を参照してください。
 - VIOS オペレーティング・システムをインストールします。手順については、『VIOS のインストール』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hch/p9hch_installvios.htm) を参照してください。
 - IBM i オペレーティング・システムをインストールします。手順については、『IBMi オペレーティング・システムのインストール』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hdx/p9hdx_ibmi.htm) を参照してください。
6. 必要な場合は、システム・ファームウェアを更新します。
- AIX オペレーティング・システムまたは Linux オペレーティング・システムを介してファームウェア修正を入手する手順については、『管理コンソールを使用しない AIX または Linux オペレーティング・システムを介してファームウェア・フィックスの入手』 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9ha5/fix_firm_no_hmc_aix.htm) を参照してください。

- VIOS を使用している場合は、Virtual I/O Server の更新 (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/POWER9/p9hb1/p9hb1_vios_managing Updating.htm)を参照してください。

7. これで、サーバーを設置する手順は完了しました。

特記事項

本書は米国が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任は適用されないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述は、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書に示されている図や仕様は、IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはなりません。

IBM は、示されている特定のマシンを対象として本書を作成しています。その他の使用および使用結果については、IBM は何ら保証責任を負いません。

IBM のコンピューター・システムには、破壊または損失したデータが検出されない危険性を減少するために設計されたメカニズムが含まれています。しかし、この危険性をゼロにすることはできません。不意の停電によるシステムの休止やシステム障害、電力の変動または停電、もしくはコンポーネント障害を経験するユーザーは、停電または障害が起きた時刻もしくはその近辺で行われたシステム操作とセーブまたは転送されたデータの正確性を検証する必要があります。さらに、ユーザーはそのような不安定で危機的な状況で操作されたデータを信頼する前に、独自のデータ検証手順を確立する必要があります。ユーザーはシステムおよび関連ソフトウェアに適用できる更新情報または修正がないか、定期的に IBM の Web サイトをチェックする必要があります。

通信規制の注記

This product may not be certified in your country for connection by any means whatsoever to interfaces of public telecommunications networks. Further certification may be required by law prior to making any such connection. Contact an IBM representative or reseller for any questions.

本製品は、電気通信事業者の通信回線との責任分界点への、直接的な接続を想定した認定取得作業を行っていません。そのような接続を行うには、電気通信事業者による事前検査等が必要となる場合があります。ご不明な点については、IBM 担当員または販売店にお問い合わせください。

IBM Power Systems サーバーのアクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーが情報技術コンテンツを快適に使用できるようにサポートします。

概説

IBM Power Systems サーバーには、次の主なアクセシビリティ機能が組み込まれています。

- キーボードのみによる操作
- スクリーン・リーダーを使用する操作

IBM Power Systems サーバーでは、最新の W3C 標準 [WAI-ARIA 1.0](http://www.w3.org/TR/wai-aria/) (www.w3.org/TR/wai-aria/) が [US Section 508](http://www.access-board.gov/guidelines-and-standards/communications-and-it/about-the-section-508-standards/section-508-standards) (www.access-board.gov/guidelines-and-standards/communications-and-it/about-the-section-508-standards/section-508-standards) および [Web Content Accessibility Guidelines \(WCAG\) 2.0](http://www.w3.org/TR/WCAG20/) (www.w3.org/TR/WCAG20/) に準拠するように使用されています。アクセシビリティ機能を利用するためには、最新リリースのスクリーン・リーダーに加えて、IBM Power Systems サーバーでサポートされている最新の Web ブラウザーを使用してください。

IBM Knowledge Center に用意されている IBM Power Systems サーバーのオンライン製品資料は、アクセシビリティに対応しています。IBM Knowledge Center のアクセシビリティ機能は、[IBM Knowledge Center のヘルプの『アクセシビリティ』セクション](http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/help#accessibility) (www.ibm.com/support/knowledgecenter/help#accessibility) で説明されています。

キーボード・ナビゲーション

この製品では、標準ナビゲーション・キーが使用されています。

インターフェース情報

IBM Power Systems サーバーのユーザー・インターフェースには、1 秒当たり 2 回から 55 回明滅するコンテンツはありません。

IBM Power Systems サーバーの Web ユーザー・インターフェースは、コンテンツの適切なレンダリング、および使用可能なエクスペリエンスの提供を、カスケード・スタイル・シートに依存しています。アプリケーションは、視覚障害者が、ハイコントラスト・モードを含め、システム表示形式の設定を使用するた

めに同等の仕組みを提供します。フォント・サイズの制御は、デバイスまたは Web ブラウザーの設定を使用して行うことができます。

IBM Power Systems サーバーの Web ユーザー・インターフェースには、アプリケーションの機能領域に迅速にナビゲートできる WAI-ARIA ナビゲーション・ランドマークが組み込まれています。

ベンダー・ソフトウェア

IBM Power Systems サーバーには、IBM の使用許諾契約書の適用外である特定のベンダー・ソフトウェアが組み込まれています。IBM では、それら製品のアクセシビリティ機能については、何ら保証責任を負いません。ベンダーの製品に関するアクセシビリティ情報については、該当のベンダーにお問い合わせください。

関連したアクセシビリティ情報

標準の IBM ヘルプ・デスクおよびサポートの各 Web サイトに加え、IBM では、聴覚障害を持つユーザーまたは聴覚機能が低下しているユーザーが販売サービスやサポート・サービスにアクセスするのに使用できる TTY 電話サービスを用意しています。

TTY サービス
800-IBM-3383 (800-426-3383)
(北アメリカ内)

アクセシビリティに対する IBM の取り組みについて詳しくは、[IBM アクセシビリティ \(www.ibm.com/able\)](http://www.ibm.com/able) を参照してください。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品 (「ソフトウェア・オファリング」) では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie をはじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』(<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)® は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、Web 上で「[Copyright and trademark information](#)」をご覧ください。

登録商標 Linux は、世界中で商標の所有者である Linux Torvalds の独占的ライセンシーである Linux Foundation のサブライセンスに従って使用されています。

Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

電波障害規制特記事項

クラス A 表示

以下のクラス A 表示は、POWER9 プロセッサを搭載した IBM サーバーおよびそのフィーチャーに適用されます。ただし、フィーチャー情報で電磁適合性 (EMC) クラス B として指定されている場合は除きます。

モニターを装置に取り付ける場合は、モニターと一緒に提供された指定のモニター・ケーブルおよび電波障害抑制装置を使用してください。

Canada Notice

CAN ICES-3 (A)/NMB-3(A)

European Community and Morocco Notice

This product is in conformity with the protection requirements of Directive 2014/30/EU of the European Parliament and of the Council on the harmonization of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

This product may cause interference if used in residential areas. Such use must be avoided unless the user takes special measures to reduce electromagnetic emissions to prevent interference to the reception of radio and television broadcasts.

Warning: This equipment is compliant with Class A of CISPR 32. In a residential environment this equipment may cause radio interference.

Germany Notice

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse A EU-Richtlinie zur Elektromagnetischen Verträglichkeit

Dieses Produkt entspricht den Schutzanforderungen der EU-Richtlinie 2014/30/EU zur Angleichung der Rechtsvorschriften über die elektromagnetische Verträglichkeit in den EU-Mitgliedsstaaten und hält die Grenzwerte der EN 55022 / EN 55032 Klasse A ein.

Um dieses sicherzustellen, sind die Geräte wie in den Handbüchern beschrieben zu installieren und zu betreiben. Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung von IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung von IBM gesteckt/eingebaut werden.

EN 55032 Klasse A Geräte müssen mit folgendem Warnhinweis versehen werden:

"Warnung: Dieses ist eine Einrichtung der Klasse A. Diese Einrichtung kann im Wohnbereich Funk-Störungen verursachen; in diesem Fall kann vom Betreiber verlangt werden, angemessene Maßnahmen zu ergreifen und dafür aufzukommen."

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

Dieses Produkt entspricht dem "Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG)". Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2014/30/EU in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC Richtlinie 2014/30/EU) für Geräte der Klasse A

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

Verantwortlich für die Einhaltung der EMV Vorschriften ist der Hersteller:
International Business Machines Corp.
New Orchard Road
Armonk, New York 10504
Tel: 914-499-1900

Der verantwortliche Ansprechpartner des Herstellers in der EU ist:
IBM Deutschland GmbH
Technical Relations Europe, Abteilung M456
IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany
Tel: +49 (0) 800 225 5426
email: HalloIBM@de.ibm.com

Generelle Informationen:

Das Gerät erfüllt die Schutzanforderungen nach EN 55024 und EN 55022 / EN 55032 Klasse A.

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) の特記事項

(一社) 電子情報技術産業協会 高調波電流抑制対策実施
要領に基づく定格入力電力値: Knowledge Centerの各製品の
仕様ページ参照

この表示は、20 A/相以下の製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

この表示は、20 A/相 (単相) を超える製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- 回路分類 : 6 (単相、P F C回路付)
- 換算係数 : 0

この表示は、20 A/相 (3 相) を超える製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- 回路分類 : 5 (3 相、P F C回路付)
- 換算係数 : 0

一般財団法人 VCCI 協会 (VCCI) の特記事項

この装置は、クラスA 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

Korea Notice

이 기기는 업무용 환경에서 사용할 목적으로 적합성평가를 받은 기기로서 가정용 환경에서 사용하는 경우 전파간섭의 우려가 있습니다.

People's Republic of China Notice

声 明
此为 A 级产品,在生活环境中,
该产品可能会造成无线电干扰。
在这种情况下,可能需要用户对其
干扰采取切实可行的措施。

Russia Notice

ВНИМАНИЕ! Настоящее изделие относится к классу A.
В жилых помещениях оно может создавать
радиопомехи, для снижения которых необходимы
дополнительные меры

Taiwan Notice

警告使用者：
此為甲類資訊技術設備，
於居住環境中使用時，可
能會造成射頻擾動，在此
種情況下，使用者會被要
求採取某些適當的對策。

IBM Taiwan Contact Information:

台灣IBM 產品服務聯絡方式：
台灣國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話：0800-016-888

United States Federal Communications Commission (FCC) Notice

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used in order to meet FCC emission limits. Proper cables and connectors are available from IBM-authorized dealers. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by using other than recommended cables and connectors or

by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate the equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Responsible Party:

International Business Machines Corporation

New Orchard Road

Armonk, NY 10504

Contact for FCC compliance information only: fccinfo@us.ibm.com

クラス B 表示

以下のクラス B 表示は、フィーチャー取り付け情報で電磁適合性 (EMC) クラス B として指定されているフィーチャーに適用されます。

モニターを装置に取り付ける場合は、モニターと一緒に提供された指定のモニター・ケーブルおよび電波障害抑制装置を使用してください。

Canada Notice

CAN ICES-3 (B)/NMB-3(B)

European Community and Morocco Notice

This product is in conformity with the protection requirements of Directive 2014/30/EU of the European Parliament and of the Council on the harmonization of the laws of the Member States relating to electromagnetic compatibility. IBM cannot accept responsibility for any failure to satisfy the protection requirements resulting from a non-recommended modification of the product, including the fitting of non-IBM option cards.

German Notice

Deutschsprachiger EU Hinweis: Hinweis für Geräte der Klasse B EU-Richtlinie zur Elektromagnetischen Verträglichkeit

Dieses Produkt entspricht den Schutzanforderungen der EU-Richtlinie 2014/30/EU zur Angleichung der Rechtsvorschriften über die elektromagnetische Verträglichkeit in den EU-Mitgliedsstaaten und hält die Grenzwerte der EN 55022/ EN 55032 Klasse B ein.

Um dieses sicherzustellen, sind die Geräte wie in den Handbüchern beschrieben zu installieren und zu betreiben. Des Weiteren dürfen auch nur von der IBM empfohlene Kabel angeschlossen werden. IBM übernimmt keine Verantwortung für die Einhaltung der Schutzanforderungen, wenn das Produkt ohne Zustimmung von IBM verändert bzw. wenn Erweiterungskomponenten von Fremdherstellern ohne Empfehlung von IBM gesteckt/eingebaut werden.

Deutschland: Einhaltung des Gesetzes über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten

Dieses Produkt entspricht dem "Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG)". Dies ist die Umsetzung der EU-Richtlinie 2014/30/EU in der Bundesrepublik Deutschland.

Zulassungsbescheinigung laut dem Deutschen Gesetz über die elektromagnetische Verträglichkeit von Geräten (EMVG) (bzw. der EMC Richtlinie 2014/30/EU) für Geräte der Klasse B

Dieses Gerät ist berechtigt, in Übereinstimmung mit dem Deutschen EMVG das EG-Konformitätszeichen - CE - zu führen.

Verantwortlich für die Einhaltung der EMV Vorschriften ist der Hersteller:

International Business Machines Corp.

New Orchard Road

Armonk, New York 10504

Tel: 914-499-1900

Der verantwortliche Ansprechpartner des Herstellers in der EU ist:

IBM Deutschland GmbH

Technical Relations Europe, Abteilung M456

IBM-Allee 1, 71139 Ehningen, Germany

Tel: +49 (0) 800 225 5426

email: HalloIBM@de.ibm.com

Generelle Informationen:

Das Gerät erfüllt die Schutzanforderungen nach EN 55024 und EN 55032 Klasse B

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) の特記事項

(一社) 電子情報技術産業協会 高調波電流抑制対策実施
要領に基づく定格入力電力値: Knowledge Centerの各製品の
仕様ページ参照

この表示は、20 A/相以下の製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

この表示は、20 A/相 (単相) を超える製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- 回路分類 : 6 (単相、PFC回路付)
- 換算係数 : 0

この表示は、20 A/相 (3 相) を超える製品に適用されます。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 準用品

本装置は、「高圧又は特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」対象機器 (高調波発生機器) です。

- 回路分類 : 5 (3 相、PFC回路付)
- 換算係数 : 0

一般財団法人 VCCI 協会 (VCCI) の特記事項

この装置は、クラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

Taiwan Notice

台灣IBM 產品服務聯絡方式：
台灣國際商業機器股份有限公司
台北市松仁路7號3樓
電話：0800-016-888

United States Federal Communications Commission (FCC) Notice

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult an IBM-authorized dealer or service representative for help.

Properly shielded and grounded cables and connectors must be used in order to meet FCC emission limits. Proper cables and connectors are available from IBM-authorized dealers. IBM is not responsible for any radio or television interference caused by using other than recommended cables and connectors or by unauthorized changes or modifications to this equipment. Unauthorized changes or modifications could void the user's authority to operate the equipment.

This device complies with Part 15 of the FCC rules. Operation is subject to the following two conditions:

(1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Responsible Party:

International Business Machines Corporation
New Orchard Road
Armonk, New York 10504
Contact for FCC compliance information only: fccinfo@us.ibm.com

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用可能性: これらの条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加されるものです。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示したりすることはできません。

権利: ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態 で 提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



部品番号: 03GM131

GC43-4289-03



(1P) P/N: 03GM131

